

**岩倉市の教育等に関するアンケート調査**  
**<調査結果報告書・概要版>**

**平成 28 年 2 月**  
**岩倉市教育委員会**

## 目 次

1	調査の概要.....	1
	(1) 調査の目的.....	1
	(2) 調査の概要.....	1
	(3) 調査報告書の見方.....	1
2	回答者の属性について.....	2
	(1) 市民アンケートの回答者の属性について.....	2
	(2) 児童生徒アンケートの回答者の属性について.....	3
	(3) 保護者アンケートの回答者の属性について.....	3
3	岩倉市の教育・生涯学習についての評価や期待.....	4
	(1) 市の教育や生涯学習施策の満足度と重要度.....	4
	(2) 5年前と比較した場合の子どもの環境.....	7
	(3) 子どもたちにどのようなようになってほしいか.....	8
	(4) 子どもの教育に関心があること.....	9
	(5) 子どもの教育に関して市が力を入れるべきだと思うこと.....	10
4	「地域教育」について.....	11
	(1) 地域の大人と子どもとの関わりについて.....	11
	(2) 子どもたちの実感について.....	12
	(3) 市民の教育活動への参加意向について.....	13
	(4) 地域教育の充実のために必要だと思う取り組み.....	14
5	「家庭教育」について.....	15
	(1) 保護者の悩みについて.....	15
	(2) 子どものおふだんの生活について.....	17
	(3) 家庭教育の充実のために必要だと思う取り組み.....	18
6	「学校教育」について.....	19
	(1) 子どもたちの学校の満足度.....	19
	(2) 子どもの悩みについて.....	21
	(3) 学校への希望について.....	22
	(4) 学校教育への保護者の参加について.....	23
	(5) 学校教育の充実のために必要だと思う取り組み.....	24
7	生涯学習活動等について.....	25
	(1) 生涯学習活動の状況.....	25
	(2) 文化・スポーツ活動について.....	29
	(3) 図書館や読書活動について.....	30
	(4) 子どものスポーツ活動について.....	31
	(5) 子どもの文化活動について.....	33
8	岩倉市への愛着や誇り、将来の意向について.....	34
	(1) 岩倉市への愛着について.....	34
	(2) 将来や岩倉市への居住意向について.....	35

# 1 調査の概要

## (1) 調査の目的

本アンケート調査は、「岩倉市教育振興基本計画」の策定にあたり、市民、児童生徒、保護者の学校教育や生涯学習、文化・スポーツ活動等に対する意識や実態等について把握し、計画づくりに活用することを目的として実施しました。

## (2) 調査の概要

区分	対象者	調査期間	調査方法	回収状況	
				回収数	回収率
市民	無作為に抽出した市民 2,500人	平成27年 10月27日～11月10日	郵送による 配布・回収	1,036	41.4%
児童生徒	岩倉市内の小学校5年生 と中学校2年生785人	平成27年 10月28日～11月6日	学校を通じた 配布・回収	751	95.7%
保護者	岩倉市内の小学校5年生 と中学校2年生の子ども を持つ保護者785人	平成27年 10月28日～11月6日	児童生徒を 通じた配布・回収	694	88.4%

## (3) 調査報告書の見方

### ●「児童生徒」「児童保護者」「生徒保護者」の表記について

本報告書内において、小学校5年生は「児童」、中学校2年生は「生徒」と表記しています。これに伴い、小学校5年生の保護者は「児童保護者」、中学校2年生の保護者は「生徒保護者」と表記しています。

### ●「N」について

グラフ中の「N」とは、Number of Casesの略で、各設問に該当する回答者総数を表します。

### ●「%」について

グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。

### ●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部、必要に応じて省略しています。

### ●「不明・無回答」について

図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

### ●「単数回答」「複数回答」について

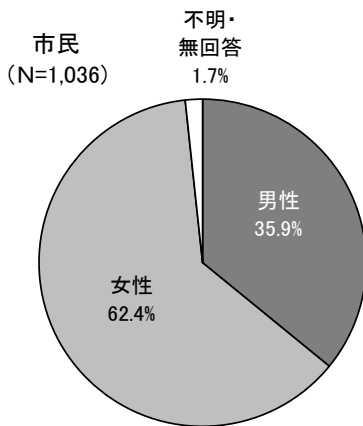
図表のタイトルにある「単数回答」は、選択肢の中から1つだけを選ぶもの、「複数回答」は選択肢の中から2つ以上を選ぶものを表します。

## 2 回答者の属性について

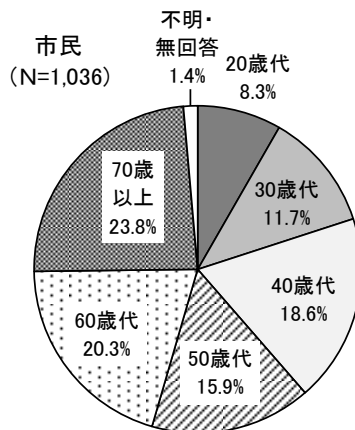
### (1) 市民アンケートの回答者の属性について

- 市民アンケートの回答者の性別は男性よりも女性が多く、年齢は60歳代、70歳以上の割合が高くなっています。今回の調査では、実際の岩倉市の年齢別人口の分布に比べて20歳代、30歳代の割合が低くなっているため、全体の読み取りについてはこのことを考慮する必要があります。
- 居住している小学校区では、「岩倉北小学校区」が31.5%と最も高くなっています。また、岩倉市にどれくらい住んでいるかでは、全体の69.0%が「他の地域から転入してきた」と回答しています。
- 回答者の職業は男性で「会社員、公務員、団体職員」「無職」が、女性で「家事従事」「パート、アルバイト、派遣社員」の割合が高くなっています。
- 子どもの有無についてみると、30歳代以上の回答者の多くが子どもを持っています。

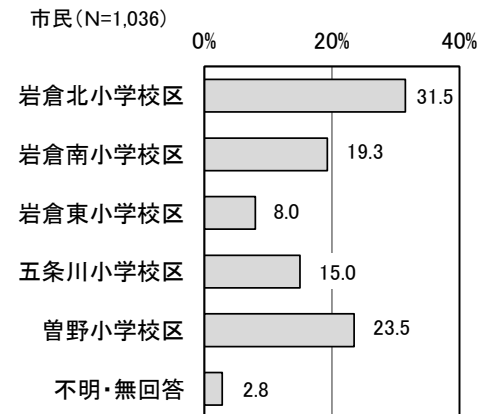
■回答者の性別（単数回答）



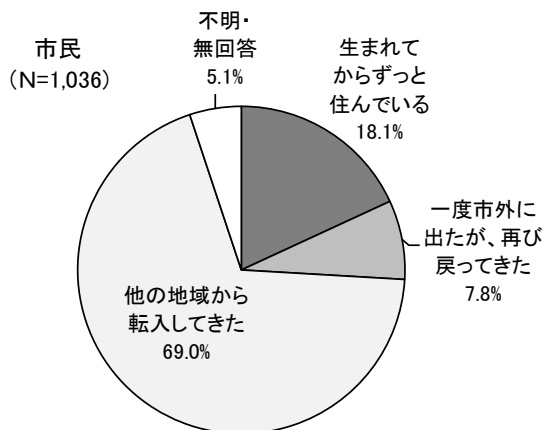
■回答者の年齢（単数回答）



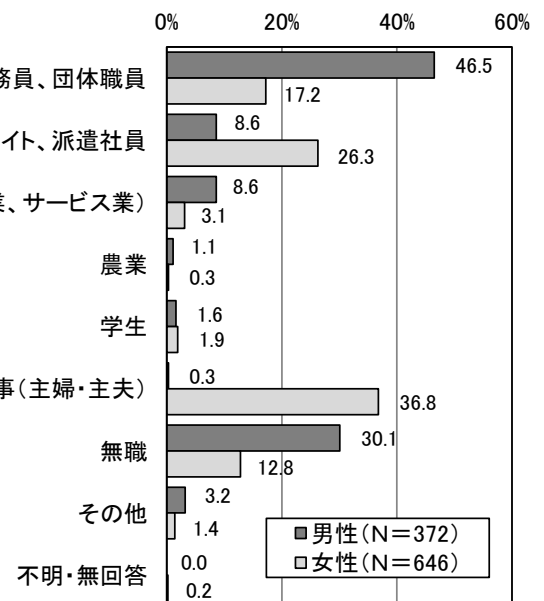
■回答者の居住地区【小学校区】（単数回答）



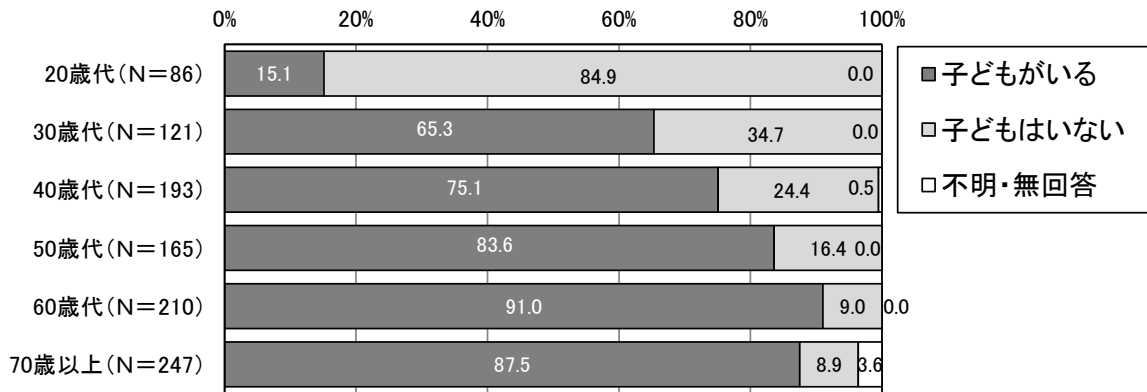
■岩倉市にどれくらい住んでいるか（単数回答）



■回答者の職業（単数回答）



■子どもの有無（「子どもがいる」は、選択肢の就学前～社会人までの子どものいずれかを選択した割合の合算）

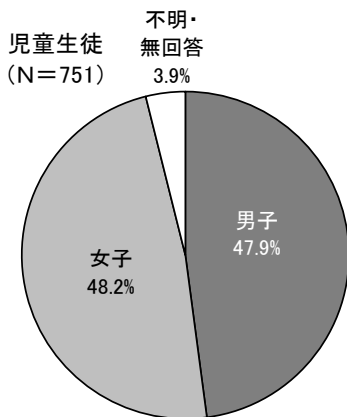


## (2) 児童生徒アンケートの回答者の属性について

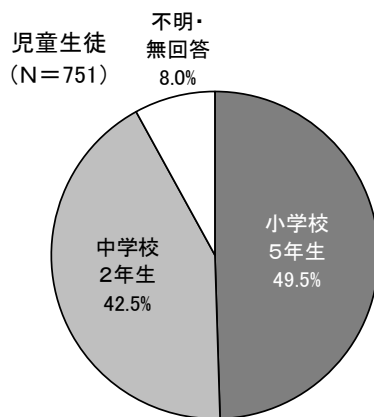
○児童生徒アンケートの回答者の性別は男女比がほぼ同じとなっています。回答者の学年ではやや小学校5年生が多くなっています。

○学校についてみると、小学校5年生では「岩倉北小学校」が41.7%を占め、また、中学校2年生では「岩倉中学校」が69.3%を占めています。

■回答者の性別（単数回答）

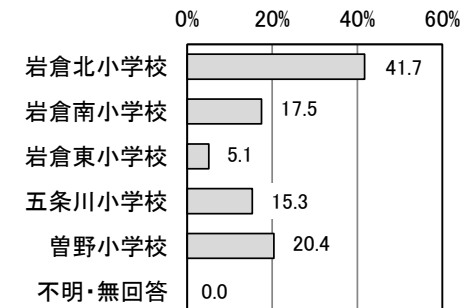


■回答者の学年（単数回答）

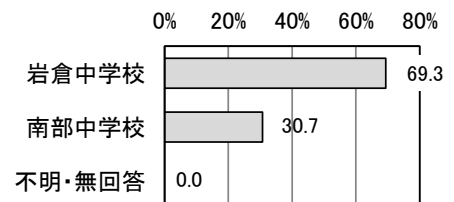


■回答者の通う学校（単数回答）

小学校5年生 (N=372)



中学校2年生 (N=319)



## (3) 保護者アンケートの回答者の属性について

○保護者アンケートは、子どもの「母親」の回答が85.0%と、大部分を占めています。

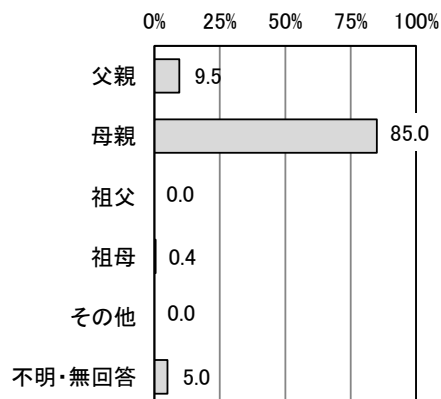
○回答者の年齢は40歳代が64.1%を占め、ほとんどが30歳代か40歳代となっています。

○家庭で子どもの教育に積極的に関わっている人は、「母親」が87.9%、「父親」が48.8%となってい

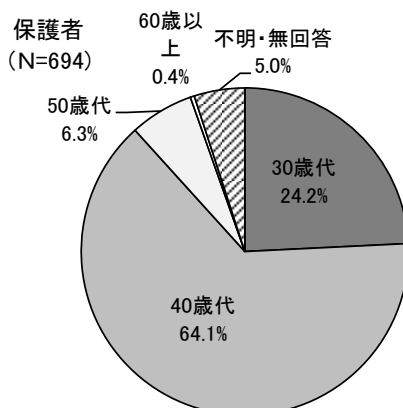
ます。「祖母」も9.1%と約1割みられます。

■子どもとの続柄（単数回答）

保護者(N=694)



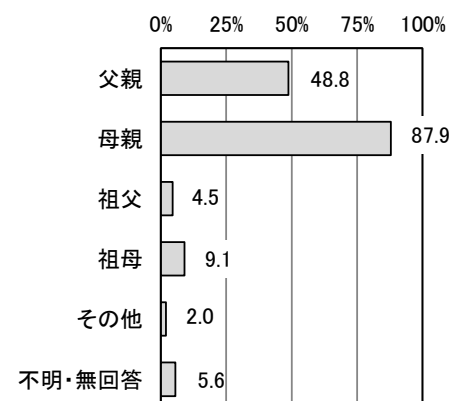
■回答者の年齢（単数回答）



■子どもの教育に関わっている人

(複数回答)

保護者(N=694)



### 3 岩倉市の教育・生涯学習についての評価や期待

#### (1) 市の教育や生涯学習施策の満足度と重要度

○市民アンケート、保護者アンケートにおいて、岩倉市の教育や生涯学習施策の満足度と重要度をたずねました。施策の区分は、次の20項目です。これら20項目それぞれに、5段階評価で満足度、重要度を選択してもらい、回答結果を加重平均し、4つのエリアに区分することで、施策の優先順位づけ等に活用します。

#### 【教育、生涯学習に関する施策】

- 1 幼児教育に関する施策の充実
- 2 学校施設の安全性
- 3 放課後の子どもの居場所づくり
- 4 地域に開かれた学校づくり
- 5 特色ある学校づくり
- 6 子どもの確かな学力の育成
- 7 子どもへの健康教育や体力づくり
- 8 豊かな心を育む道徳・人権教育
- 9 教職員の指導力の向上
- 10 外国籍児童への教育支援
- 11 障がいのある子どもへの特別支援教育
- 12 学校給食の充実
- 13 青少年の健全育成（児童生徒の見守り等）
- 14 生涯学習機会の充実
- 15 家庭教育に関する施策の充実
- 16 文化・芸術活動の充実
- 17 地域の伝統・文化の保護や継承
- 18 文化財等の保護・保存
- 19 生涯スポーツの充実
- 20 図書館サービスの充実

市民・保護者ともに評価が高いものは「青少年の健全育成」。

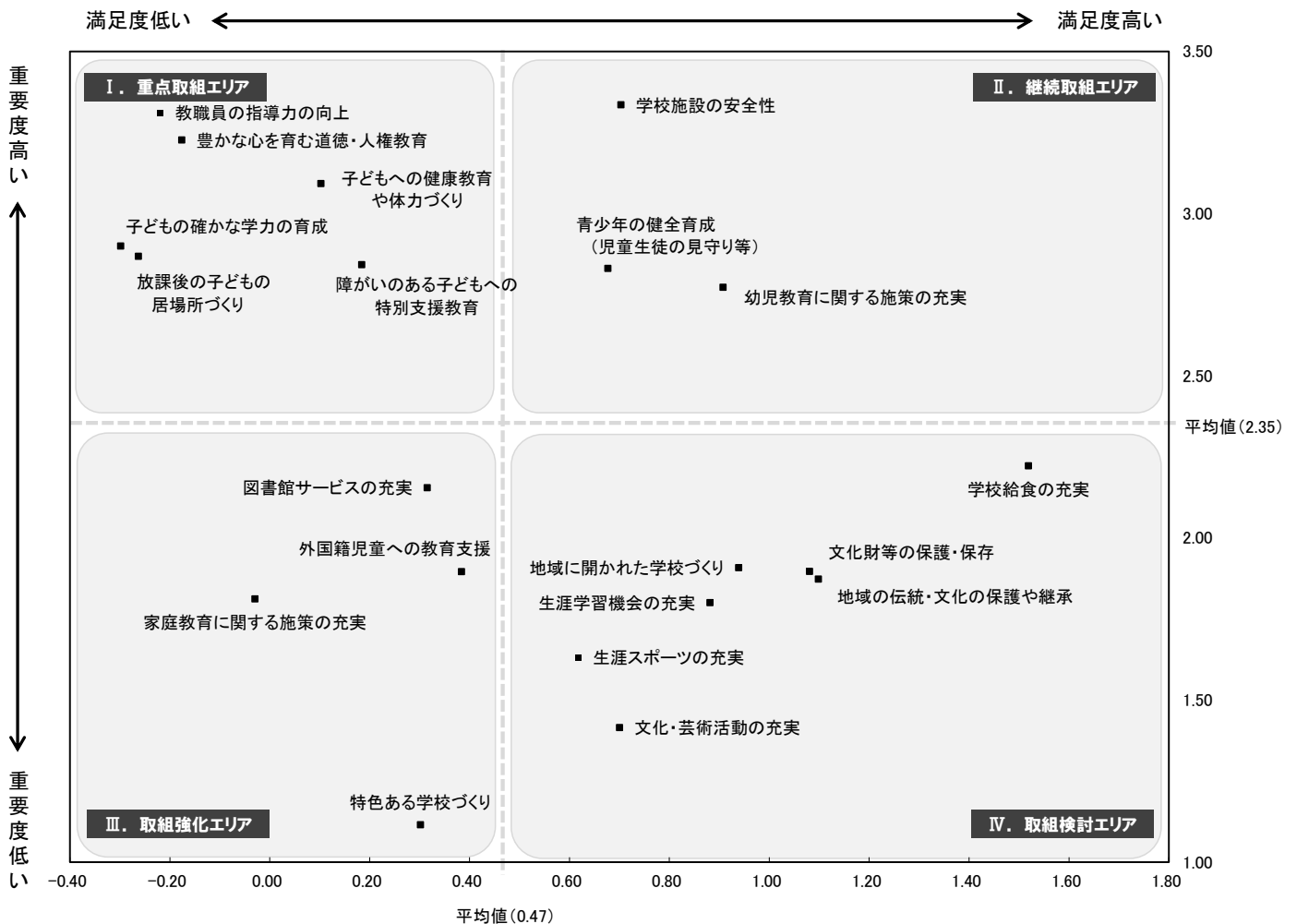
一方、重要であるのに満足度が低いとされるものは「教職員の指導力」「道徳・人権教育」「確かな学力」「健康教育や体力づくり」「放課後の子どもの居場所づくり」であり、重点的に取り組む必要がある。

○施策を、それぞれ満足度が低く重要度が高い「重点取組エリア」、満足度・重要度がともに高い「継続取組エリア」、満足度・重要度がともに低い「取組強化エリア」、満足度が高く重要度が低い「取組検討エリア」の4つに分類します。

○市民アンケートにおいて、満足度・重要度がともに高いと評価された施策は「継続取組エリア」に分類された『学校施設の安全性』『青少年の健全育成』『幼児教育に関する施策の充実』の3項目です。

○一方、重要度が高いのにもかかわらず満足度が低い「重点取組エリア」に分類されたものは『教職員の指導力の向上』『豊かな心を育む道徳・人権教育』『子どもへの健康教育や体力づくり』『子どもの確かな学力の育成』『放課後の子どもの居場所づくり』『障がいのある子どもへの特別支援教育』の6項目です。

■市民アンケートの満足度・重要度の分析結果



○保護者アンケートにおいて「継続取組エリア」に分類されたものは、『学校給食の充実』『青少年の健全育成』『障がいのある子どもへの特別支援教育』の3項目です。

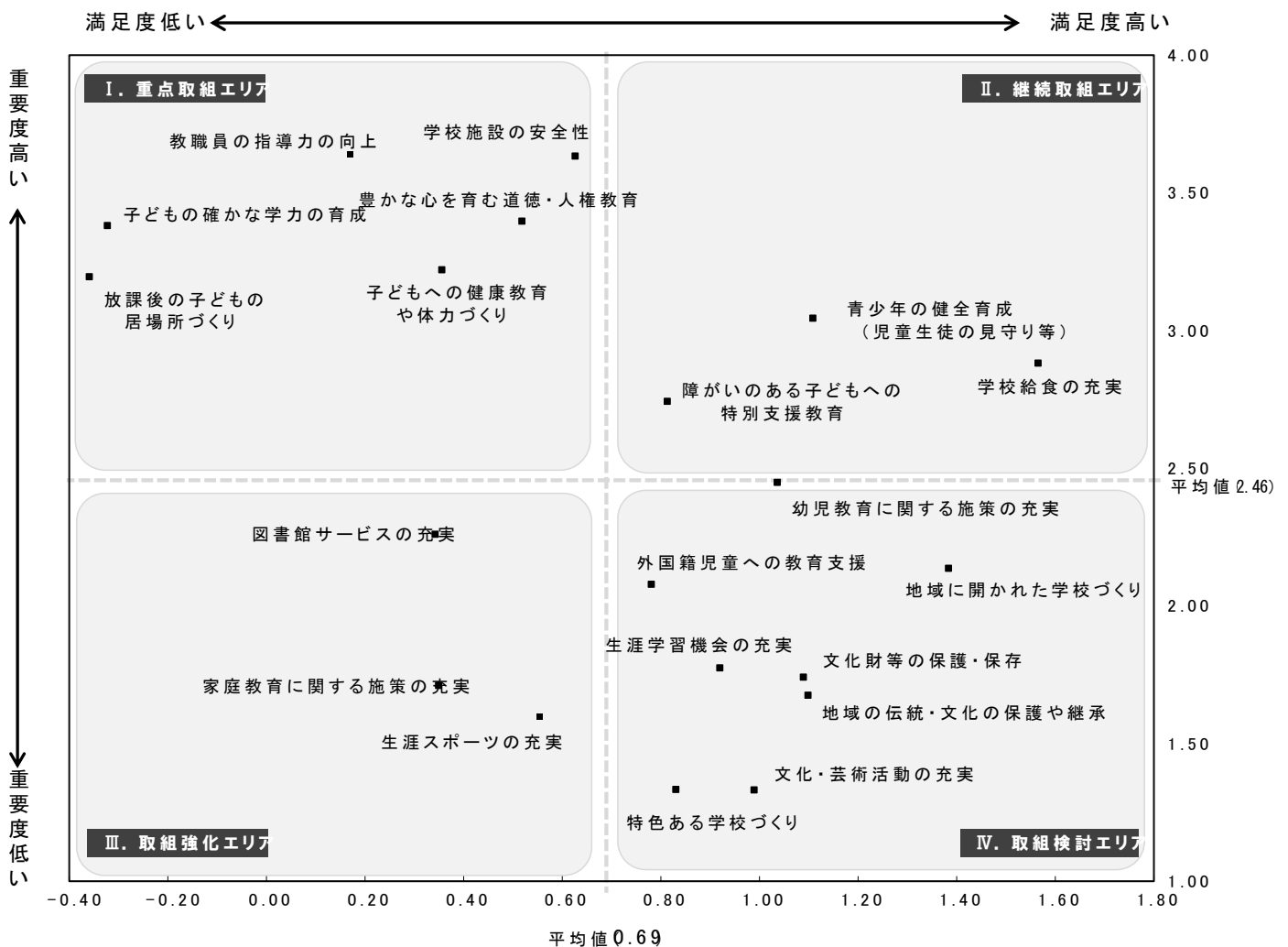
○一方、「重点取組エリア」に分類されたものは『教職員の指導力の向上』『学校施設の安全性』『豊かな心を育む道徳・人権教育』『子どもの確かな学力の育成』『子どもへの健康教育や体力づくり』『放課後の子どもの居場所づくり』の6項目です。

○市民アンケートと保護者アンケートを比較すると、両方のアンケートで満足度・重要度がともに高いと評価された施策は『青少年の健全育成』となっており、地域での子ども等への見守り活動等が市民実感に大きく反映されていると言えます。

○両方のアンケートで「重点取組エリア」に分類されたものは『教職員の指導力の向上』『豊かな心を育む道徳・人権教育』『子どもの確かな学力の育成』『子どもへの健康教育や体力づくり』『放課後の子どもの居場所づくり』の5項目であり、これらの施策には重点的に取り組む必要があります。

○市民アンケートで満足度が低いとされた『障がいのある子どもへの特別支援教育』は、より学校教育現場に近い保護者の視点では満足度が高くなっており、市民視点では適切な判断ができにくい分野であったと考えられます。

■保護者アンケートの満足度・重要度の分析結果





(2) 5年前と比較した場合の子どもの環境

「子どもの礼儀やマナー」「子どもの元気さ」「学校の施設・設備」は、市民・保護者ともに良くなっていると感じられている。特に悪化していると感じられる分野は「教育格差」、保護者にとっては「地域の安全性」である。

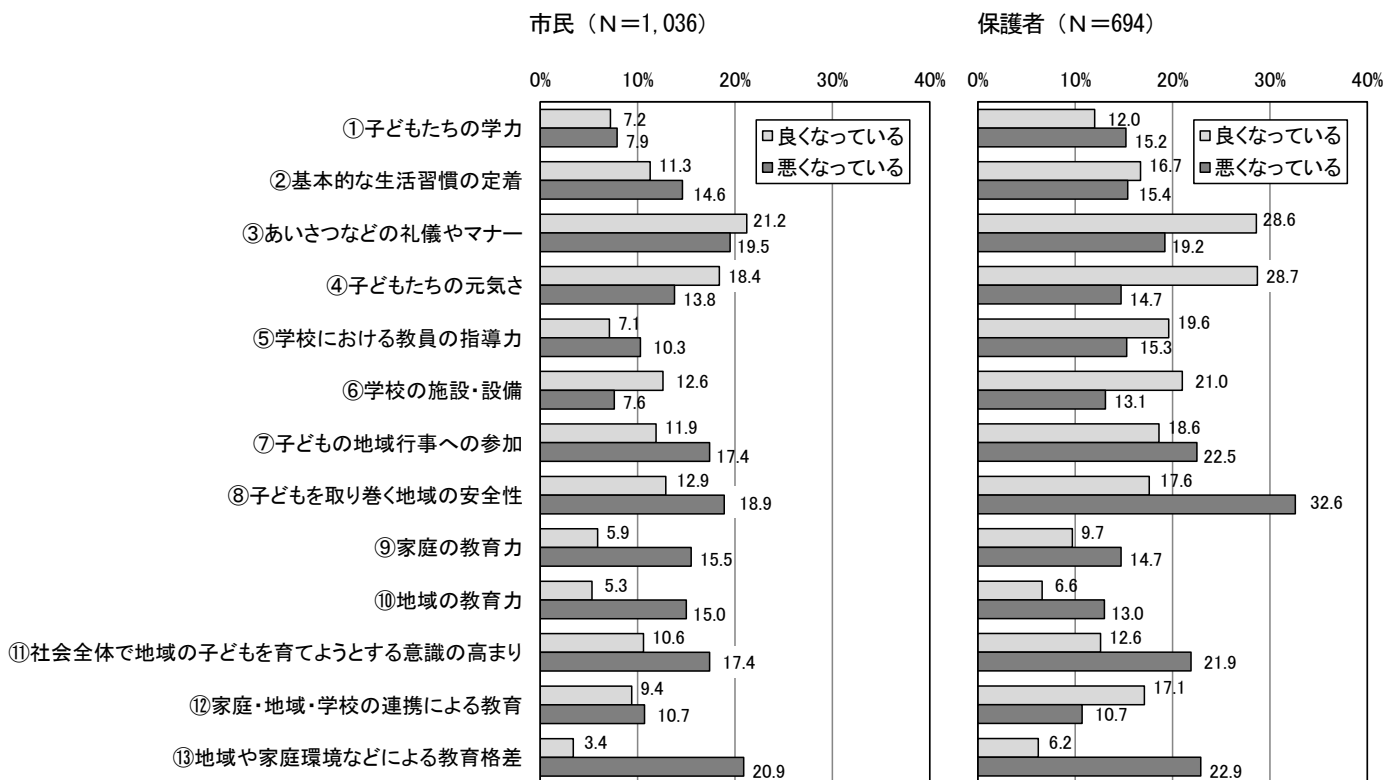
○市民アンケート、保護者アンケートにおいて、ここ5年くらいの間の子どもを取り巻く環境の変化についてたずねました。『良くなっている』と『悪くなっている』を比較すると、両アンケートともに『良くなっている』が『悪くなっている』を上回った項目は「③あいさつなどの礼儀やマナー」「④子どもたちの元気さ」「⑥学校の施設・設備」となっています。

○一方、両アンケートともに『悪くなっている』が『良くなっている』を上回った項目は、「①子どもたちの学力」「⑦子どもの地域行事への参加」「⑧子どもを取り巻く地域の安全性」「⑨家庭の教育力」「⑩地域の教育力」「⑪社会全体で地域の子どもを育てようとする意識の高まり」「⑬地域や家庭環境などによる教育格差」となっています。特に地域に関する項目で、環境の悪化が懸念されていると言えます。

○中でも「⑬地域や家庭環境などによる教育格差」については、両アンケートともに、10ポイント以上『悪くなっている』が上回り、課題を感じている市民・保護者が多いことが伺えます。

○また、保護者アンケートでは②～⑥の子ども自身や学校を取り巻く環境について『良くなっている』が上回り、環境が改善されていることを実感していることがわかります。しかし、保護者アンケートでは特に「⑧子どもを取り巻く地域の安全性」において『悪くなっている』が『良くなっている』を15ポイント上回り、犯罪等の危険を不安に感じていることがうかがえます。

■ここ5年くらいの間に岩倉市の教育や子どもを取り巻く環境はどのようになってきていると感じるか（項目ごと単数回答）



※良くなっている=「良くなっている」「どちらかといえば、良くなっている」を合わせたもの  
 悪くなっている=「悪くなっている」「どちらかといえば、悪くなっている」を合わせたもの

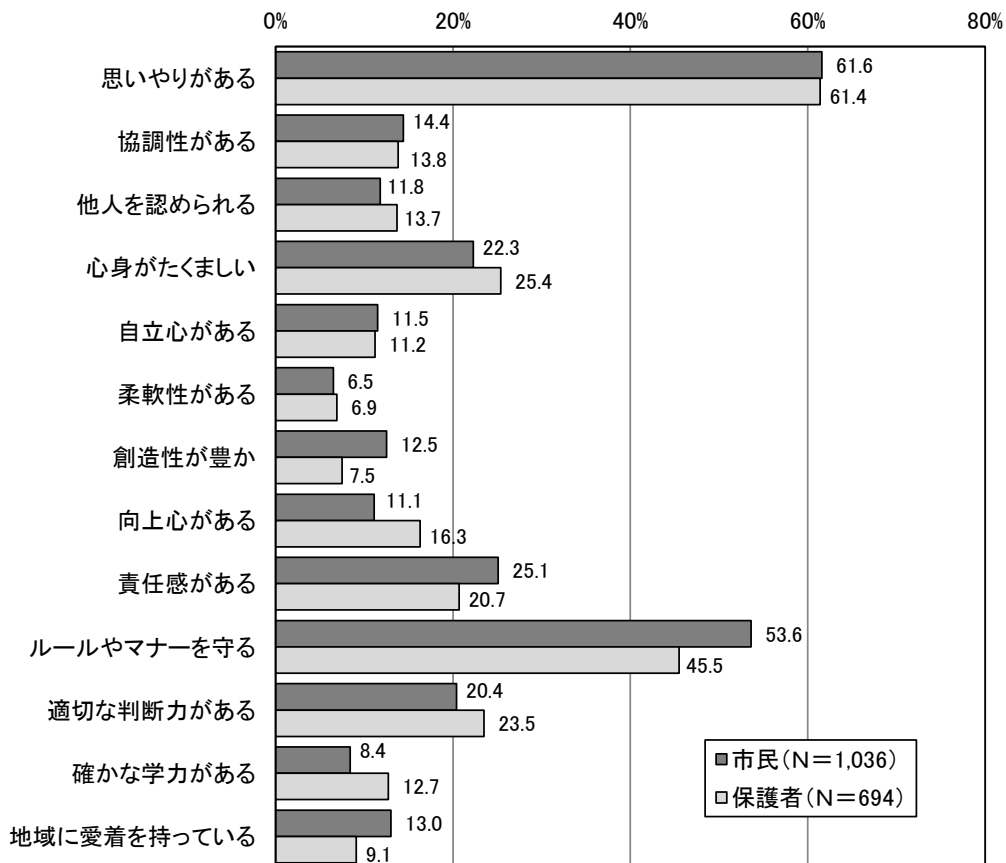
(3) 子どもたちにどのようなようになってほしいか

子どもには「思いやりがある」「ルールやマナーを守る」ことを身に付けてほしいと感じられている。

- 市民アンケート、保護者アンケートにおいて、岩倉市の子どもたちにどのようなようになってほしいと思うかたずねました。両アンケートともに、「思いやりがある」がほぼ同じ割合で最も高くなっており、次いで「ルールやマナーを守る」となっています。
- 市民アンケートは比較的「責任感がある」「創造性が豊か」「地域に愛着を持っている」の割合が高く、保護者アンケートは「心身がたくましい」「向上心がある」「適切な判断力がある」「確かな学力がある」の割合が高くなっています。
- 市民は、ルールを守ることや責任感を持つことなど、社会人としての規範意識等を大切にする傾向があるのに対し、保護者は心身のたくましさや判断力、学力、向上心などの子ども自身の力をより伸ばしてほしいと感じていることがうかがえます。

市民アンケート・保護者アンケート

■岩倉市の子どもたちにどのようなようになってほしいと思うか（複数回答）



(4) 子どもの教育で関心があること

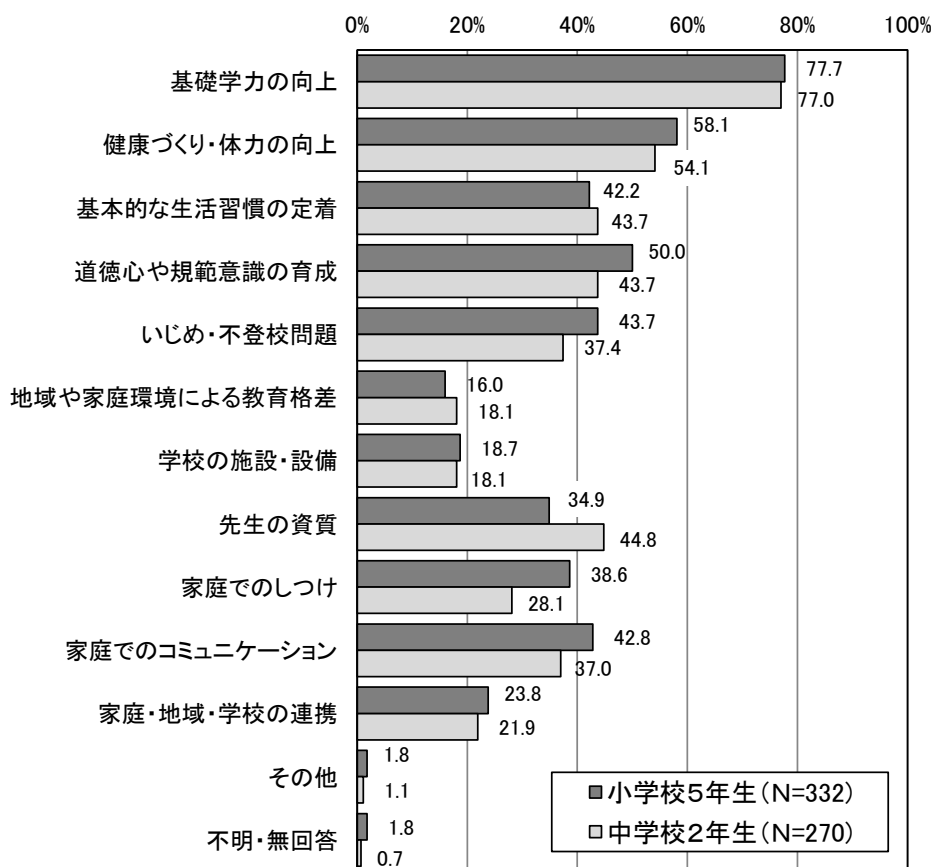
保護者が子どもの教育について関心があることは「基礎学力の向上」「健康づくり・体力の向上」。

○保護者アンケートにおいて、子どもの教育に関して特に関心があることをたずねたところ、児童保護者、生徒保護者ともに「基礎学力の向上」との回答が最も多くなっています。

○児童保護者と生徒保護者を比較すると、生徒保護者では「先生の資質」が高く、児童保護者では「道徳心や規範意識の育成」「いじめ・不登校問題」「家庭でのしつけ」「家庭でのコミュニケーション」の割合が高くなっています。児童保護者では、家庭教育に関することに関心が高い傾向がみられます。

保護者アンケート

■子どもの教育に関連して、特に関心があること（複数回答） ※子どもの学年別クロス集計



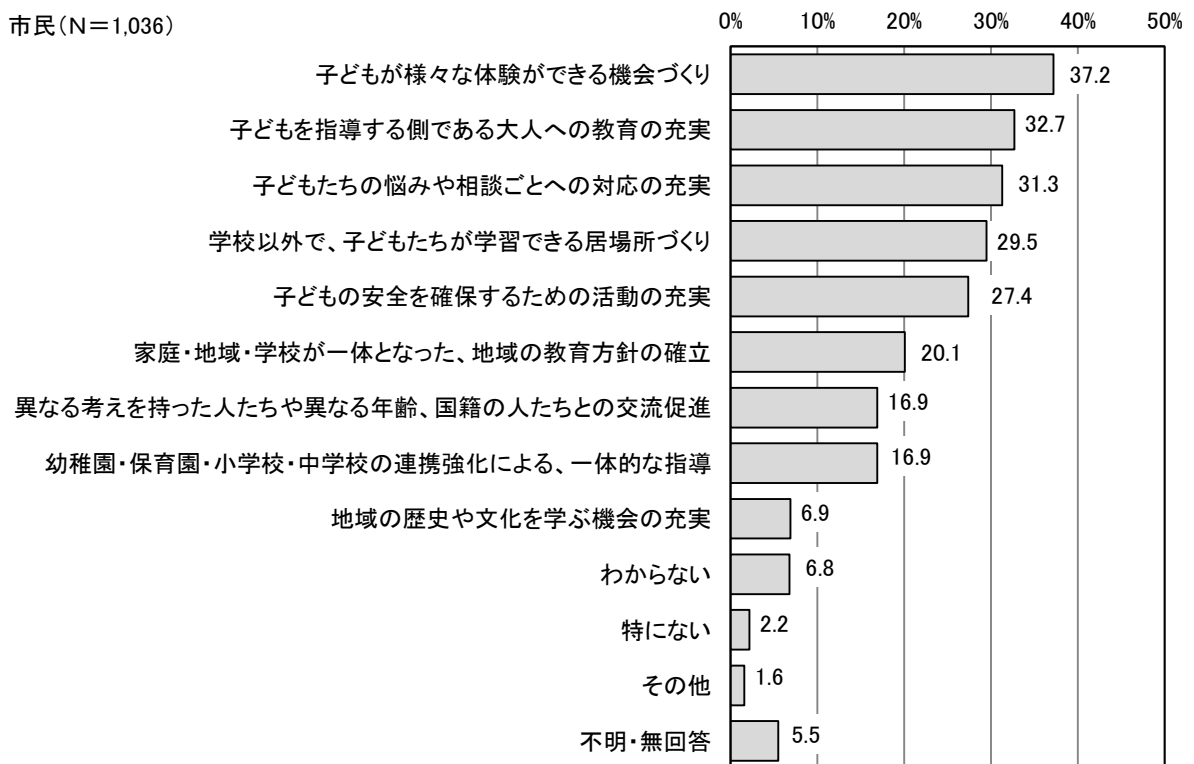
(5) 子どもの教育に関して市が力を入れるべきだと思うこと

力を入れるべきだと思うものとして「様々な体験ができる機会」「大人への教育」「子どもたちへの相談対応」があげられている。

○市民アンケートにおいて、子どもの教育に関して力を入れるべきだと思うことについてたずねたところ、「子どもが様々な体験ができる機会づくり」「子どもを指導する側である大人への教育の充実」「子どもたちの悩みや相談ごとへの対応の充実」が上位となっています。

市民アンケート

■岩倉市の子どもが健やかに育まれるようにするために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思うか（複数回答）



## 4 「地域教育」について

### (1) 地域の大人と子どもとの関わりについて

「あいさつ」は、大人よりも子どもの方がより積極的に行っている。地域の子どもと関わりを持っていない大人は31.0%。

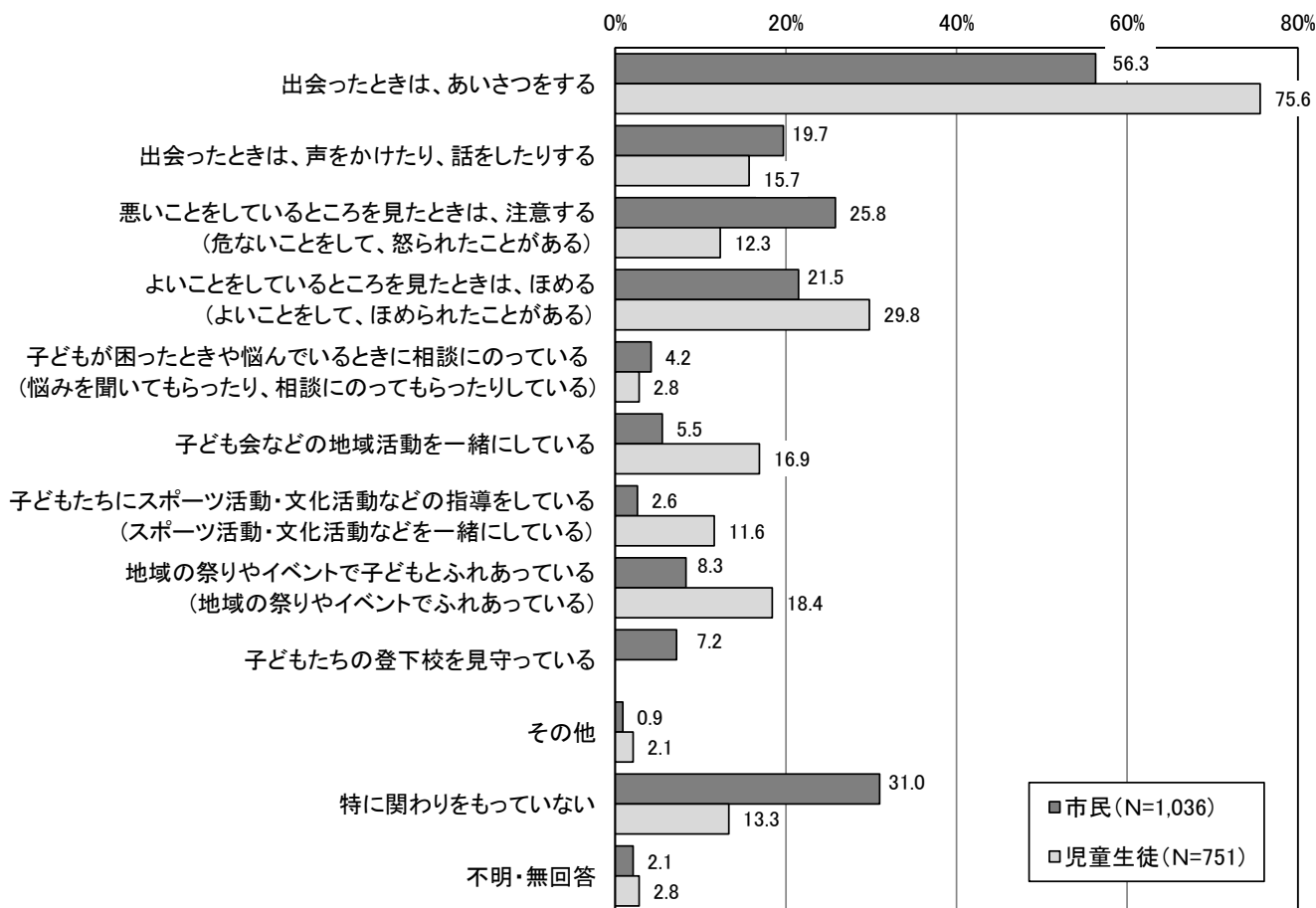
○市民アンケート、児童生徒アンケートそれぞれで、地域の子ども・大人とどのように関わっているかたずねたところ、「出会ったときは、あいさつをする」について、児童生徒は75.6%であるのに対し、市民は56.3%にとどまり、その差は19.3ポイントとなっています。

○その他、「出会ったときは、声をかけたり、話をしたりする」「悪いことをしているところを見たときは、注意する」では児童生徒よりも市民でその割合が高いのに対し、児童生徒では「よいことをして、ほめられたことがある」「子ども会などの地域活動を一緒にしている」「スポーツ活動・文化活動などを一緒にしている」「地域の祭りやイベントでふれあっている」で市民よりも高くなっています。

○一部の市民は積極的に児童生徒との関わりを持っており、それが子どもたちにとって、地域の大人と一緒に活動していることの実感を高めていると考えられます。一方で、市民の31.0%が「特に関わりを持っていない」と回答しています。

#### 市民アンケート・児童生徒アンケート

##### ■ふだんの地域の子ども・大人との関わり（複数回答）



※選択肢の（ ）内は、児童生徒アンケートのもの

(2) 子どもたちの実感について

半数の児童生徒が地域の大人の見守りを感じている。また、地域の大人に求められている役割も安全の見守りが高くなっている。

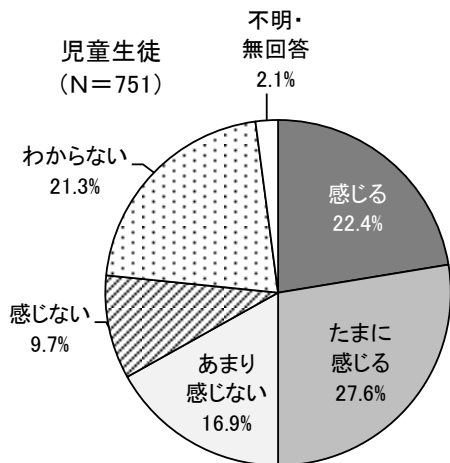
○児童生徒アンケートにおいて、地域の大人が自分たちを見守ってくれていると感じるかたずねたところ、全体の半数の児童生徒が「感じる」または「たまに感じる」と回答しています。一方、「感じない」「あまり感じない」とする児童生徒の割合は26.6%と、全体の約4分の1を占めました。

○地域の大人に望むことは何かたずねたところ、最も高い割合を占めたものは「特に望むことはない」となっています。それ以外では、「自分たちの安全を見守ってほしい」とする割合が、特に小学5年生で高くなっています。

○学校の行き帰りに、危険な目にあつたことがあるかたずねたところ、約半数の児童生徒は「危険な目にあつたことはない」と回答しています。しかし、小学校5年生では「公園などの遊具で遊んでいてケガをした」割合が22.5%とやや高くなっており、「知らない人に声をかけられた」も1割程度みられます。

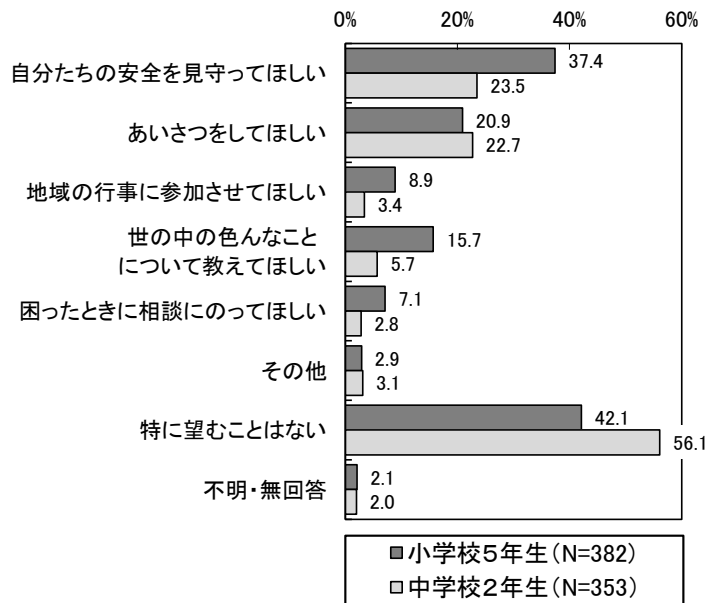
児童生徒アンケート

■大人が見守ってくれていると感じるか（単数回答）



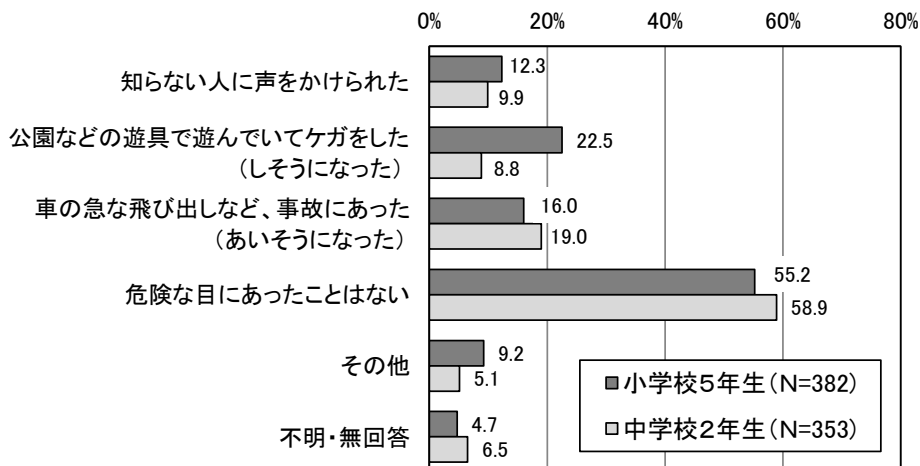
児童生徒アンケート

■地域の大人に望むこと（複数回答） ※学年別クロス集計



児童生徒アンケート

■学校の行き帰りに、危険な目にあつたことがあるか（複数回答） ※学年別クロス集計



(3) 市民の教育活動への参加意向について

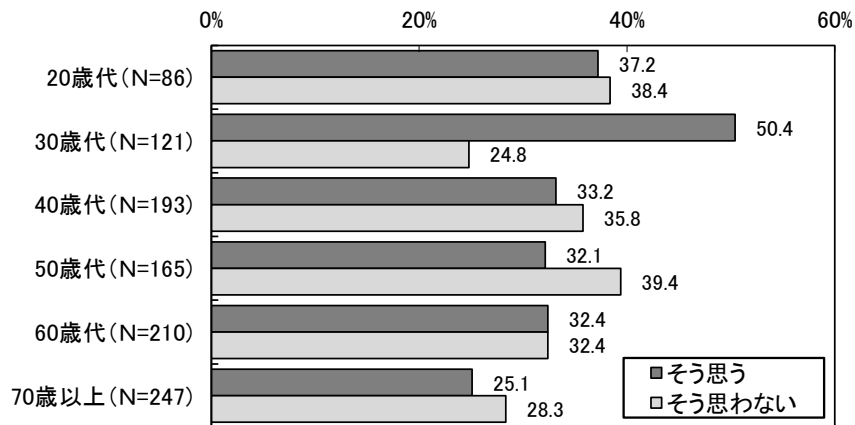
30歳代で、子どもたちへの教育活動に関わりたいと思う割合が高い。また、年代ごとに、参加したい教育活動に特徴がみられる。

○地域ぐるみの子どもたちへの教育活動への参加意向は、30歳代が最も高くなっています。

○関わりたい地域の教育活動の内容は、20・30歳代は「放課後や休日に、子どもたちと一緒に遊ぶ活動」、40・50歳代は「地域ぐるみで学校運営を支援する活動」、60歳以上は「登下校の見守り活動」で参加意向が高くなっています。

市民アンケート

■地域ぐるみの子どもたちへの教育活動に関わりたいと思うか（単数回答） ※年代別クロス集計



※そう思う＝「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの  
 そう思わない＝「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせたもの

市民アンケート

■関わりたい地域の教育活動（単数回答） ※年代別クロス集計・上位3位まで

20歳代 (N=32)			30歳代 (N=61)		
1	放課後や休日に、子どもたちと一緒に遊ぶ活動	43.8%	1	放課後や休日に、子どもたちと一緒に遊ぶ活動	41.0%
2	スポーツ、文化活動等の指導	34.4%	2	登下校の見守り活動	29.5%
3	学校の授業への講師としての参加	31.3%	3	地域ぐるみで学校運営を支援する活動	16.4%
	放課後や休日に、子どもの学習を支援する活動	31.3%		放課後や休日に、子どもの学習を支援する活動	16.4%
40歳代 (N=64)			50歳代 (N=53)		
1	地域ぐるみで学校運営を支援する活動	28.1%	1	地域ぐるみで学校運営を支援する活動	28.3%
2	登下校の見守り活動	25.0%		スポーツ、文化活動等の指導	28.3%
3	放課後や休日に、子どもたちと一緒に遊ぶ活動	21.9%	3	登下校の見守り活動	18.9%
				放課後や休日に、子どもたちと一緒に遊ぶ活動	18.9%
60歳代 (N=68)			70歳以上 (N=62)		
1	登下校の見守り活動	52.9%	1	登下校の見守り活動	51.6%
2	地域ぐるみで学校運営を支援する活動	20.6%	2	地域ぐるみで学校運営を支援する活動	24.2%
3	放課後や休日に、子どもの学習を支援する活動	13.2%	3	放課後や休日に、子どもたちと一緒に遊ぶ活動	17.7%
	放課後や休日に、子どもたちと一緒に遊ぶ活動	13.2%			
	スポーツ、文化活動等の指導	13.2%			

※地域の教育に関わりたいと思うか、の問に対し「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人のみへの質問

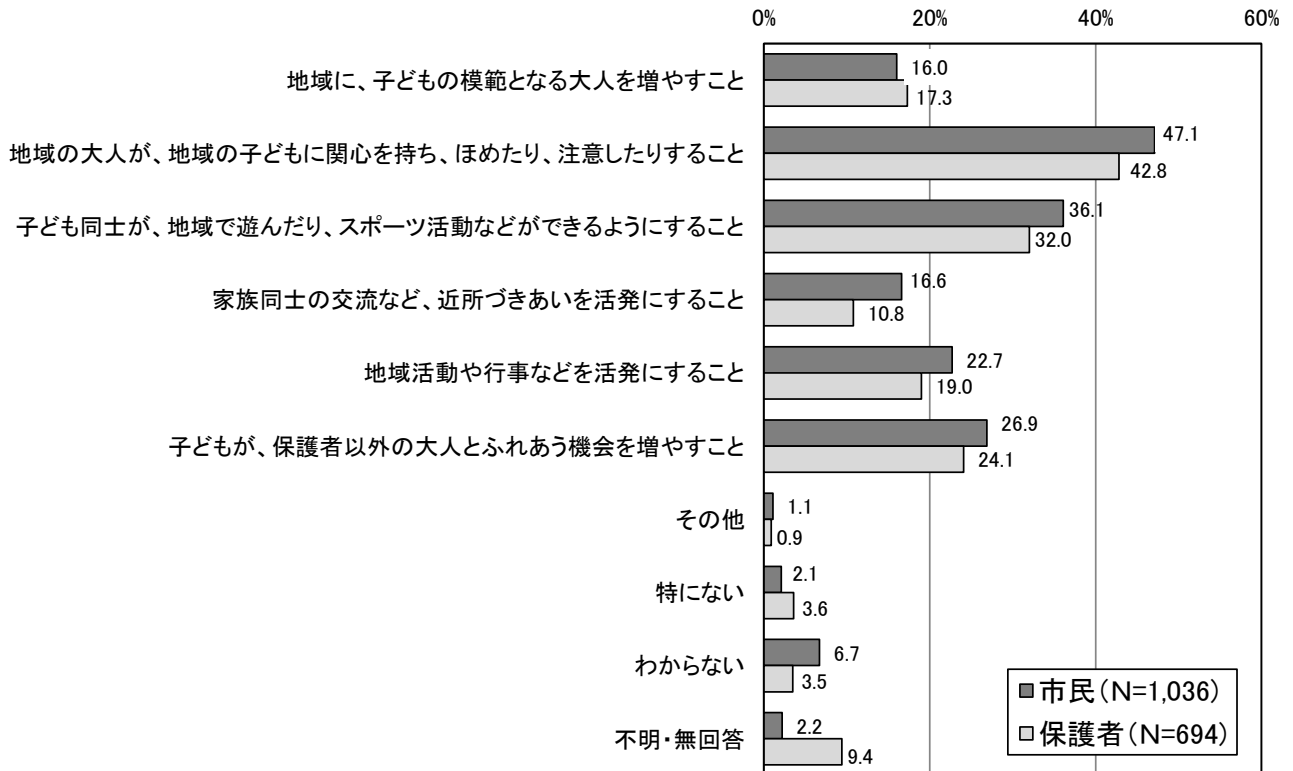
(4) 地域教育の充実のために必要だと思う取組

地域教育では地域の大人が子どもに関心を持つことや、子ども同士、または子どもと大人との交流の機会を増やすことが必要だと感じられている。

○市民アンケート、保護者アンケートともに、「地域の大人が、地域の子どもに関心を持ち、ほめたり、注意したりすること」「子ども同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにすること」「子どもが、保護者以外の大人とふれあう機会を増やすこと」の順になっています。

市民アンケート・保護者アンケート

■地域の教育力を高めるために必要だと思う取組み（複数回答）





## 5 「家庭教育」について

### (1) 保護者の悩みについて

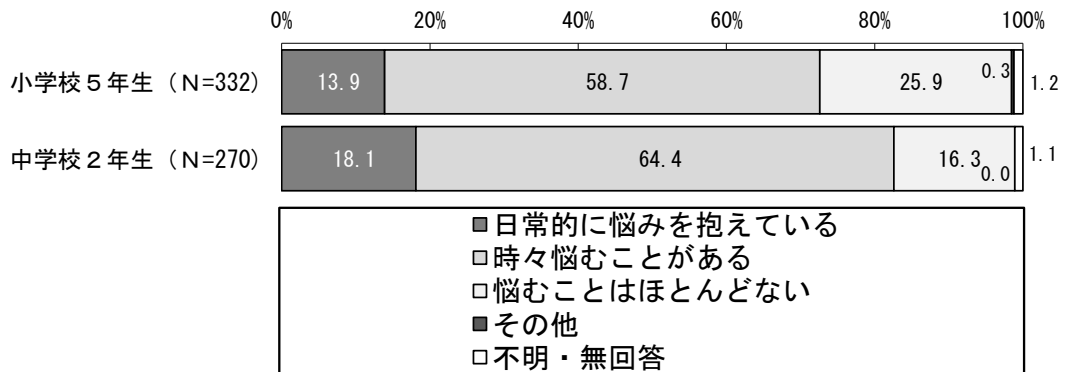
児童保護者の13.9%、生徒保護者の18.1%が「日常的に悩みを抱えている」。悩みの内容は学力、しつけ、携帯電話やスマートフォンに関することが多い。

○保護者アンケートにおいて、子どもの教育に関して困り事や悩みがあるかたずねたところ、児童保護者の72.6%、生徒保護者の82.5%が、何らかの悩みを抱えています。中でも児童保護者の13.9%、生徒保護者の18.1%が「日常的に悩みを抱えている」と回答しています。

○悩みの内容では、児童保護者、生徒保護者ともに「子どもの学力や学習状況に不安を感じる」の割合が高くなっていますが、次いで児童保護者では「家庭でのしつけや教育方法などに不安を感じる」が、生徒保護者では「携帯やスマートフォン、インターネットなどの使い方に不安を感じる」がそれぞれ続いています。

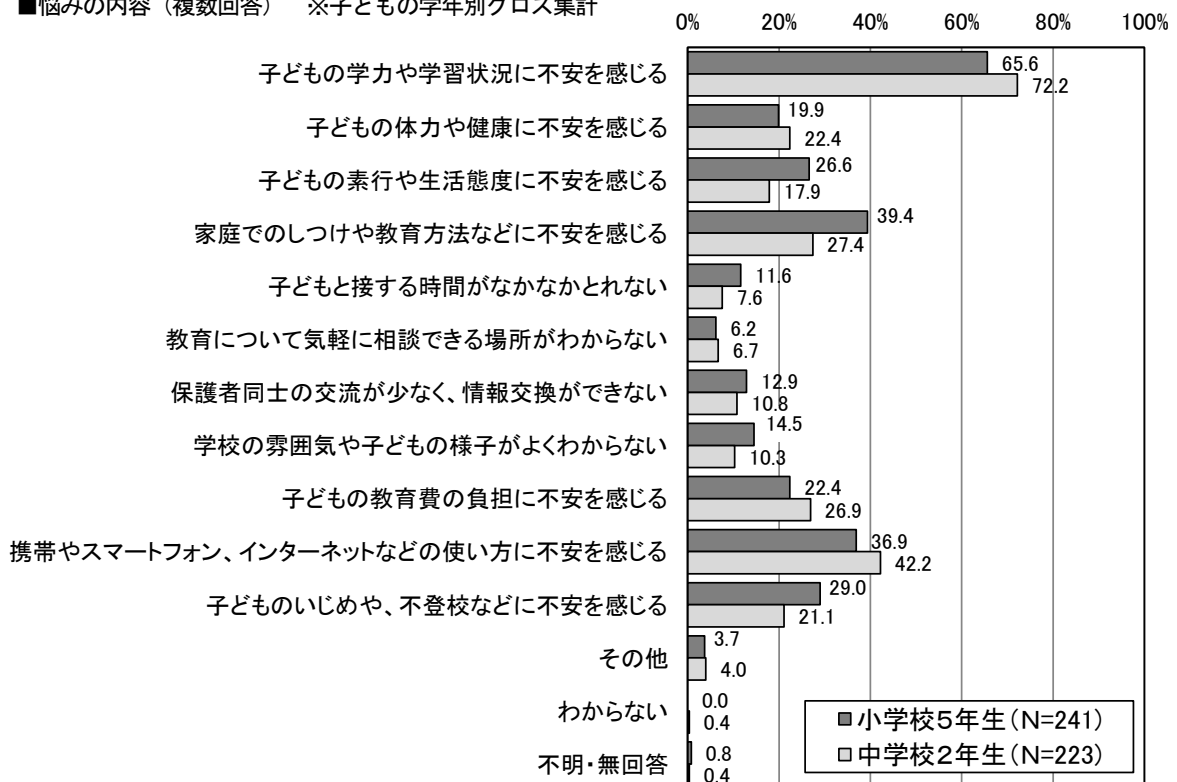
#### 保護者アンケート

■子どもの教育に関して、困り事や悩みがあるか（単数回答） ※子どもの学年別クロス集計



#### 保護者アンケート

■悩みの内容（複数回答） ※子どもの学年別クロス集計



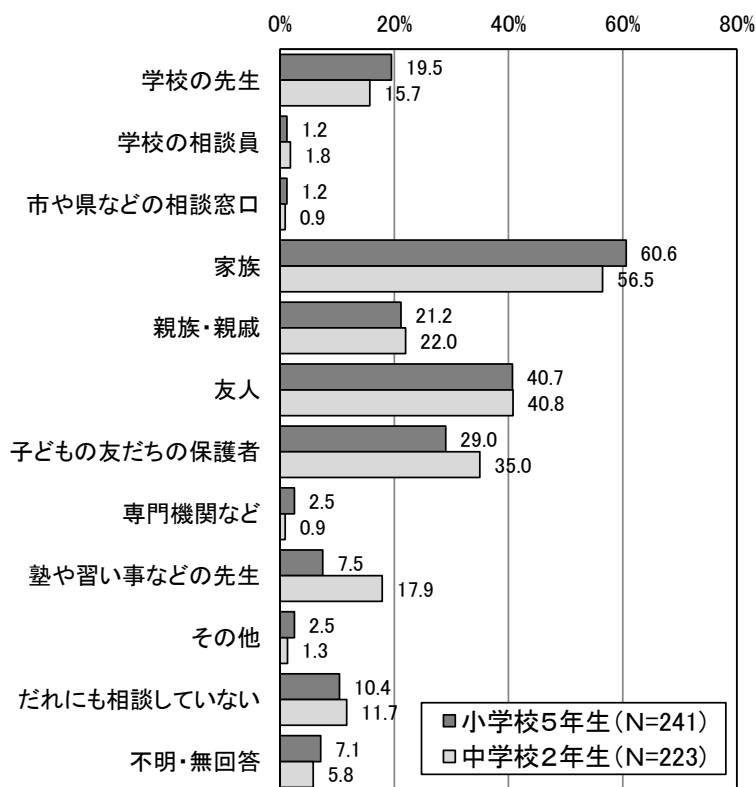
保護者の悩みの相談相手は「家族」「友人」「子どもの友だちの保護者」が多い。

○保護者アンケートにおいて、子どもの教育に関する困り事や悩みの相談相手をたずねたところ、児童保護者、生徒保護者ともに「家族」の割合が最も高く、次いで「友人」「子どもの友だちの保護者」の順となっています。

○児童保護者と生徒保護者を比較してみると、生徒保護者の方が「塾や習い事などの先生」の割合が高くなっています。

保護者アンケート

■悩みの相談相手（複数回答） ※子どもの学年別クロス集計



(2) 子どものふだんの生活について

ふだんの生活の中では、子どもと母親とのつながりが強い。また、小学生は家族とのコミュニケーションを求めている。

○児童生徒アンケートにおいて、家族の誰と一番話をするかたずねたところ、小学校5年生、中学校2年生ともに「母親」の割合が6割を超え、群を抜いて高くなっています。次いで「きょうだい」が約2割で続いており、「父親」は1割に満たない状況となっています。

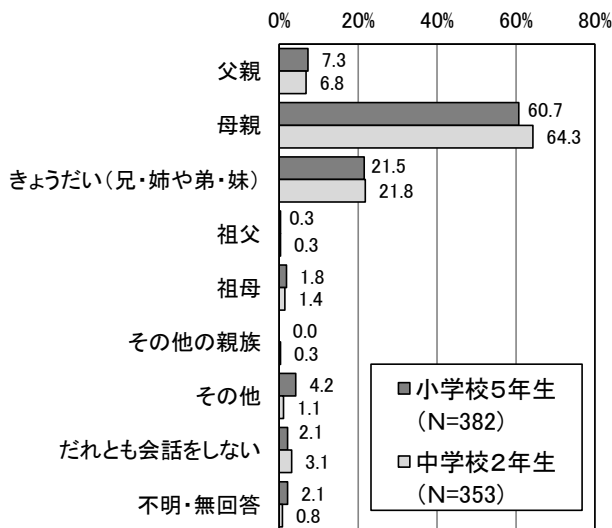
○最も話をする家族とどのような内容の話をするかたずねたところ、小学校5年生、中学校2年生ともに「学校や塾、習い事でのこと」「友だちのこと」「テレビ番組の話題」が上位となっています。

○家族に望むことは、小学校5年生、中学校2年生ともに「おこったり、口うるさく言わないでほしい」が最も高くなっています。また、小学校5年生は「家族みんなが仲の良い、明るい家庭にしてほしい」「もっと一緒にいる時間をとってほしい」も高く、家族とのコミュニケーションを求めています。中学校2年生は、小学校5年生に比べて「がんばっていることをもっと認めてほしい」の割合が高くなっています。

児童生徒アンケート

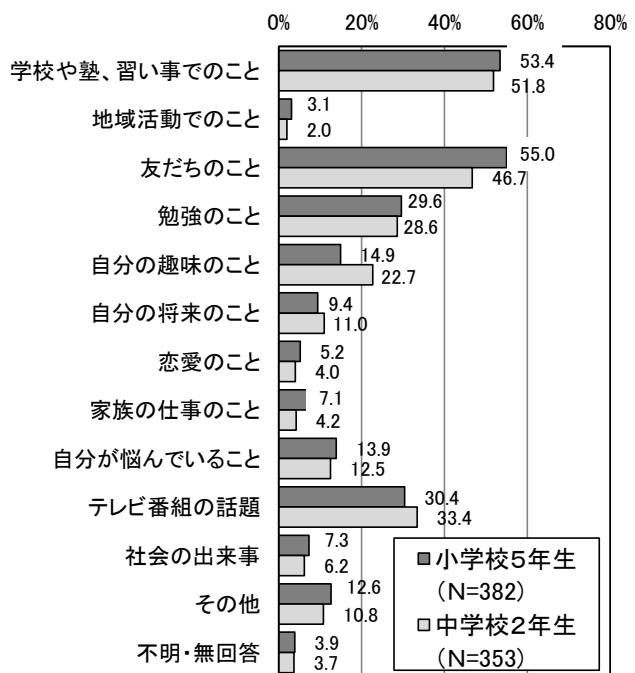
■家族の誰と一番話をするか (単数回答)

※学年別クロス集計



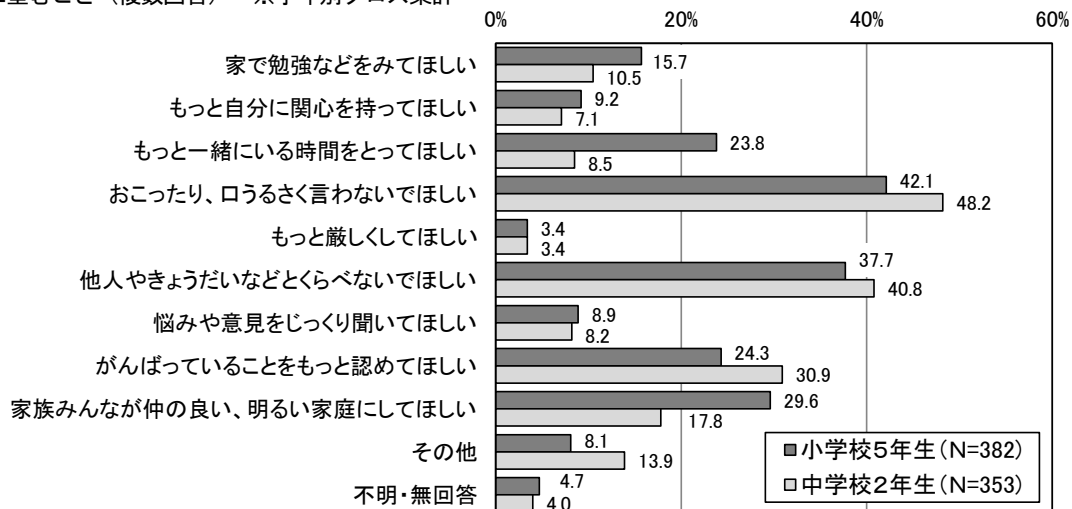
児童生徒アンケート

■一番話をする家族との話の内容 (複数回答) ※学年別クロス集計



児童生徒アンケート

■家族に望むこと (複数回答) ※学年別クロス集計



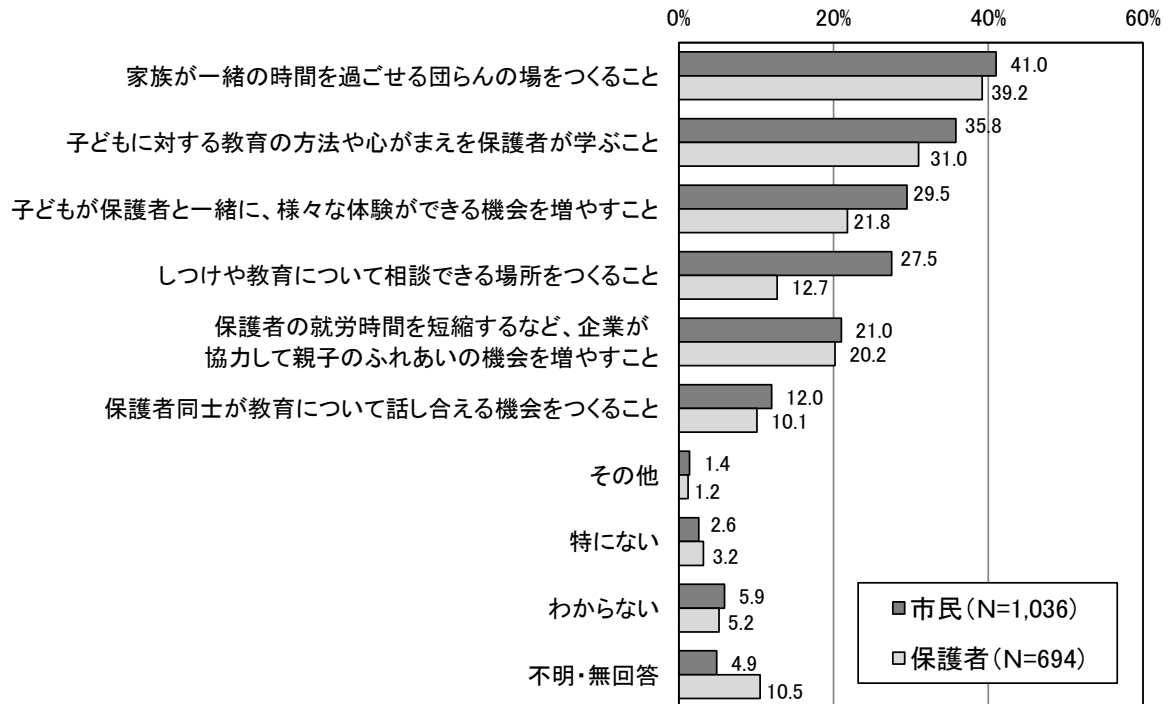
(3) 家庭教育の充実のために必要だと思う取組

家庭教育では「団らんの場づくり」「保護者の心がまえ」が重視されている。

○市民アンケート、保護者アンケートともに、「家族が一緒の時間を過ごせる団らんの場をつくること」「子どもに対する教育の方法や心がまえを保護者が学ぶこと」「子どもが保護者と一緒に、様々な体験ができる機会を増やすこと」の順になっています。

市民アンケート・保護者アンケート

■家庭の教育力を高めるために必要だと思う取り組み（複数回答）



## 6 「学校教育」について

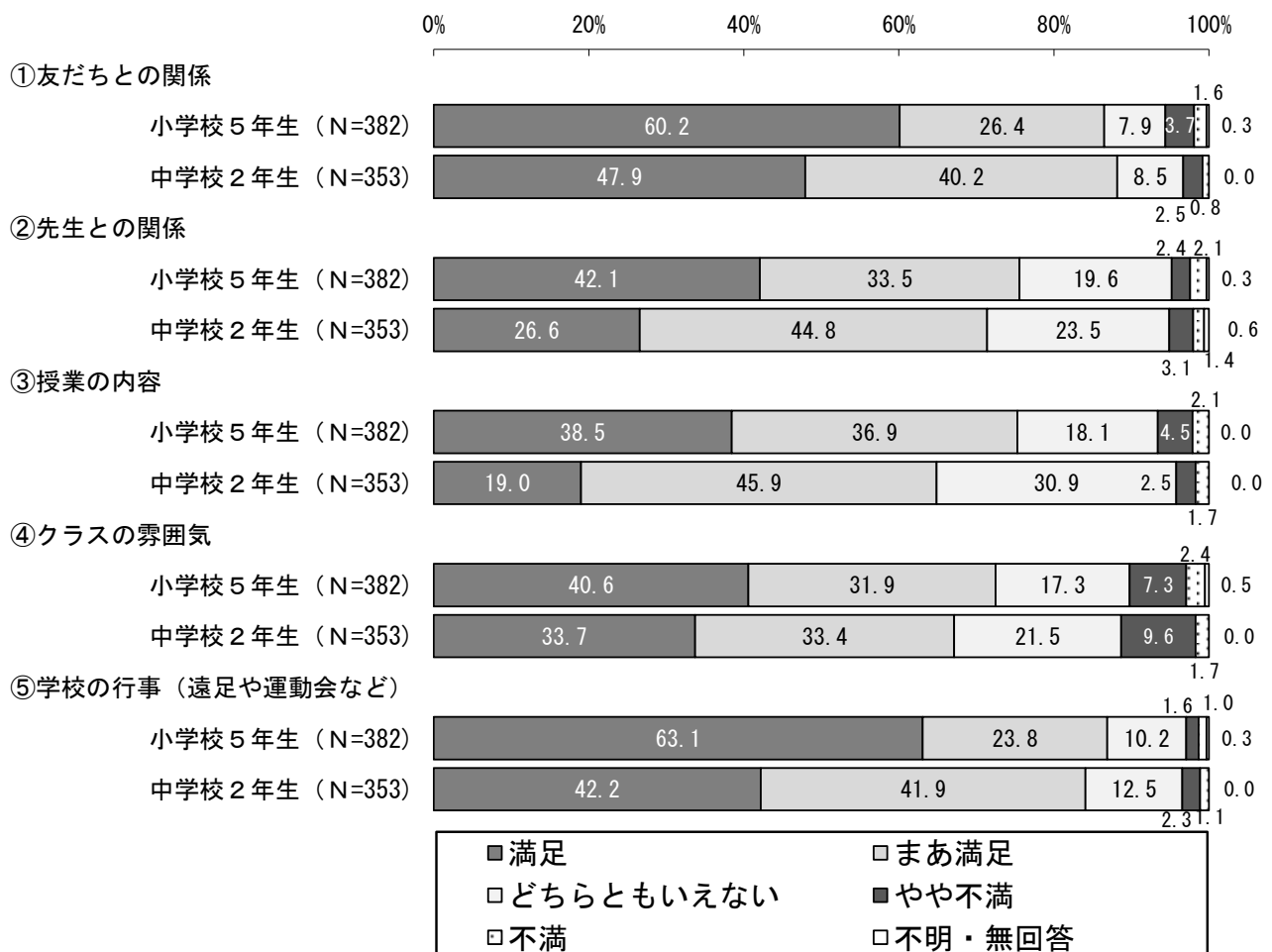
### (1) 子どもたちの学校の満足度

児童生徒は、すべての分野でおおむね満足していると言えるが、クラスの雰囲気については約1割が不満を感じている。

- 児童生徒アンケートにおいて、学校生活の各分野における満足度をたずねたところ、いずれの分野でも「満足」または「まあ満足」の割合が高く、概ね良い結果となっています。
- 小学校5年生と中学校2年生を比較してみると、「①友だちとの関係」のみ、中学校2年生で満足とする割合が高くなっていますが、それ以外の項目では小学校5年生の方で満足度が高くなっています。年齢が上がるにつれて、状況が変化していることがうかがえます。
- 「不満」と「やや不満」を合わせた回答では、『④クラスの雰囲気』が最も多く、小学校5年生では9.7%、中学校2年生では11.3%と、ともに約1割を占めています。

#### 児童生徒アンケート

■学校生活における満足度（項目ごと単数回答） ※学年別クロス集計



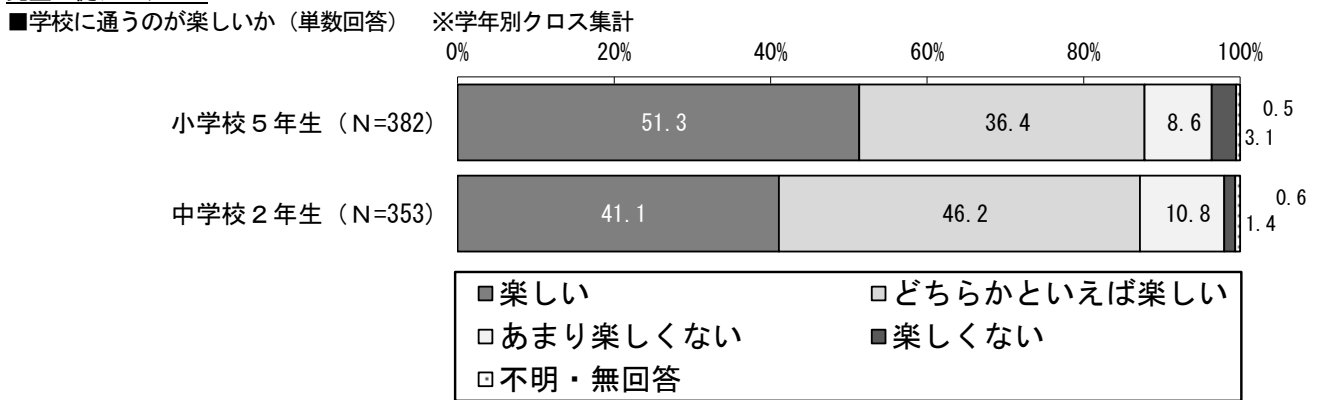
大部分の児童生徒が学校を楽しんでいると感じている。楽しくないと感じている理由は、小学生は友人関係、中学生はやりたくないことの多さとなっている。

○児童生徒アンケートにおいて学校に通うのが楽しかったところ、小学校5年生、中学校2年生ともに約87%が「楽しい」または「どちらかといえば楽しい」と回答しています。

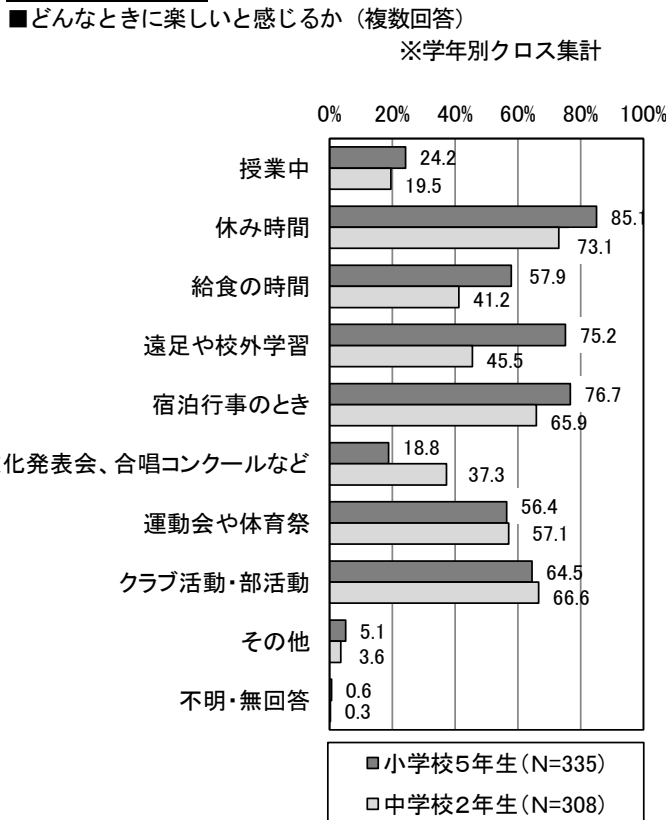
○楽しいと感じるときは、小学校5年生、中学校2年生ともに「休み時間」が最も高くなっています。小学校5年生では次いで「宿泊行事のとき」「遠足や校外学習」といった、校外での活動が上位になっています。中学校2年生では「クラブ活動・部活動」「宿泊行事のとき」が続いています。

○「楽しくない」または「あまり楽しくない」と回答した児童生徒に対し、どうして楽しくないのかたずねたところ、小学校5年生では「友だちとうまくいかない」、中学校2年生では「やりたくないことが多い」がそれぞれ最も高くなっています。

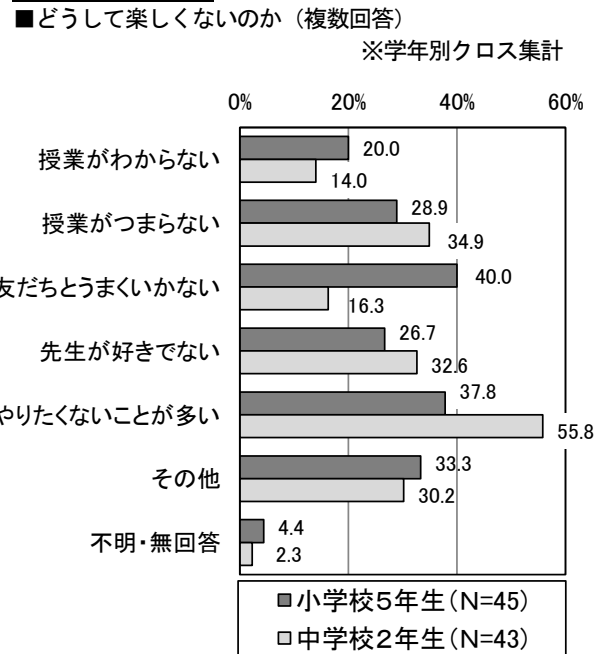
児童生徒アンケート



児童生徒アンケート



児童生徒アンケート



【その他回答の主な内容】

- ・友人関係に関すること（7件）
- ・クラスに関すること（5件）
- ・部活に関する事（3件）
- ・規則に関すること（2件）

(2) 子どもの悩みについて

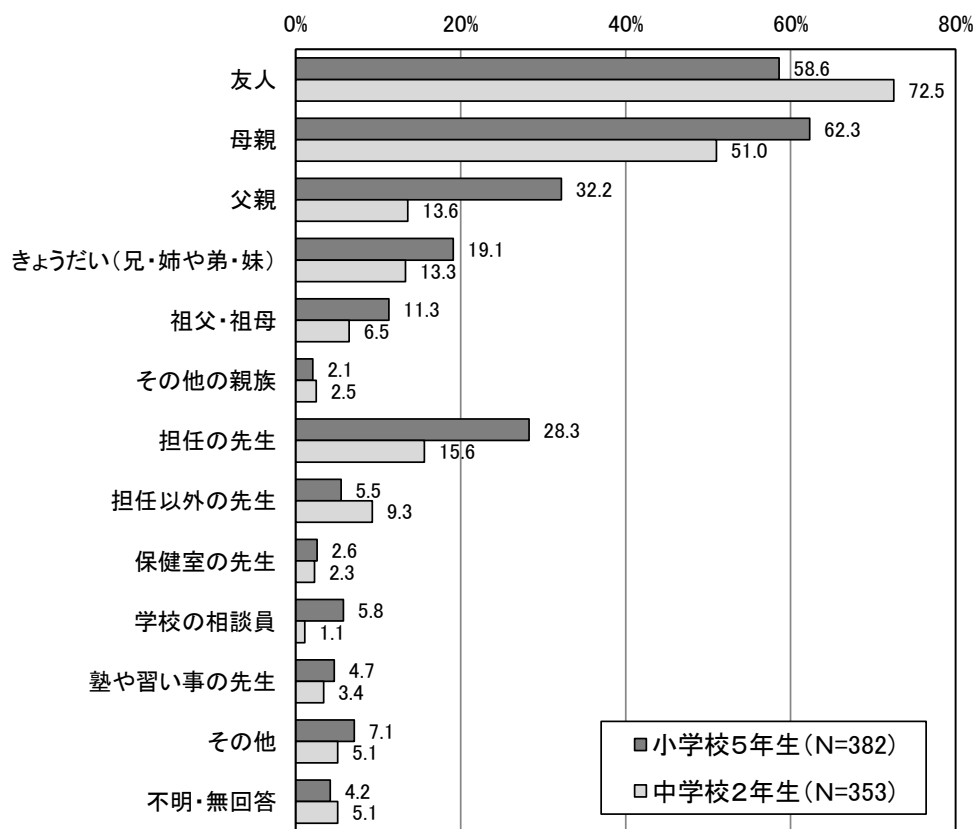
小学生は「母親」、中学生は「友人」が主な相談相手となっている。

○児童生徒アンケートにおいて、学校で困っていることや、不安に思うことがあった場合の相談相手をたずねたところ、小学校5年生では「母親」が、中学校2年生では「友人」がそれぞれ最も高い割合となっています。

○小学校5年生と中学校2年生を比較してみると、小学校5年生では「父親」「担任の先生」の割合が高くなっています。また、中学校2年生では「担任以外の先生」の割合も小学校5年生に比べてやや高くなっています。

児童生徒アンケート

■学校で困っていることや、不安に思うことがあった場合の相談相手（複数回答） ※学年別クロス集計



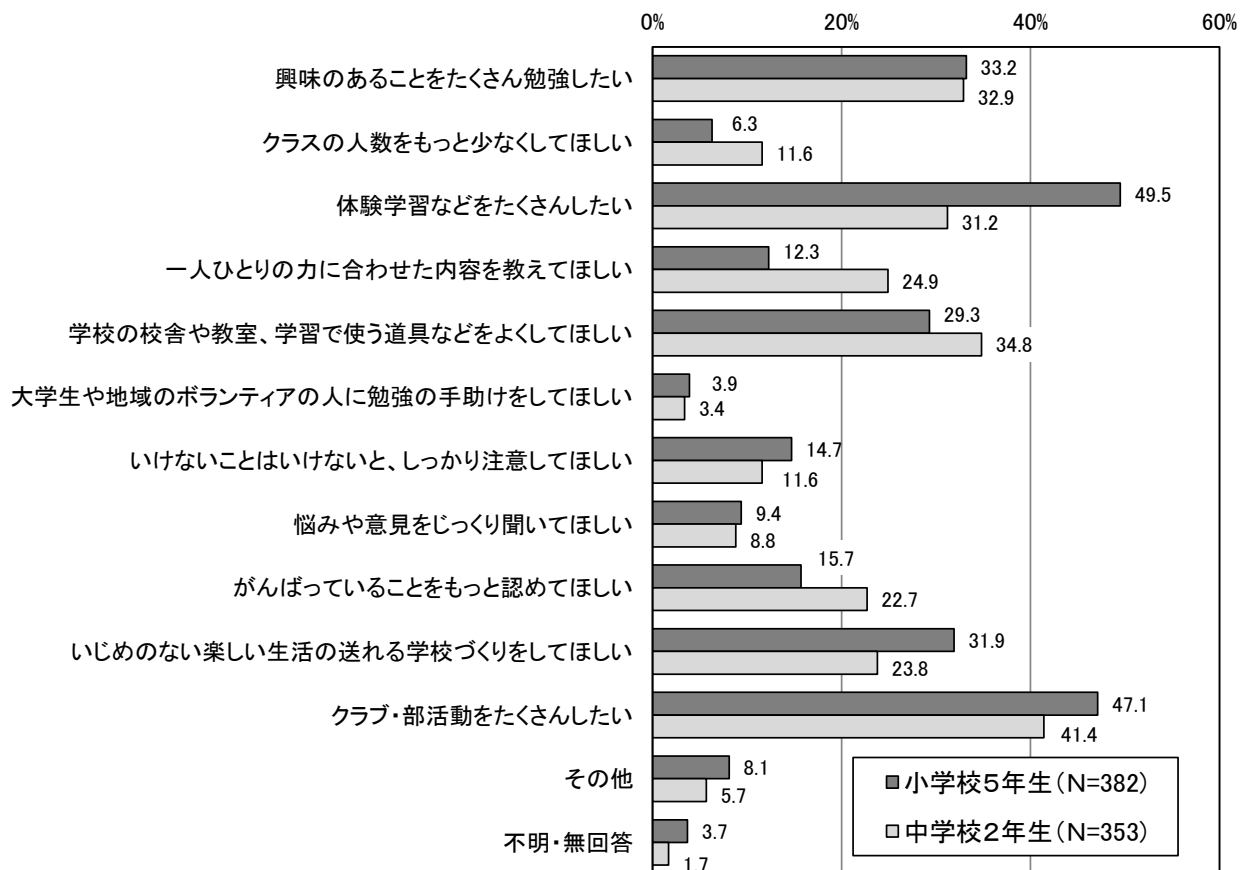
### (3) 学校への希望について

小学生は「体験学習などをたくさんしたい」、中学生は「クラブ・部活動をたくさんしたい」という希望がそれぞれ最も多い。

- 児童生徒アンケートにおいて、学校や先生に対して希望することをたずねたところ、小学校5年生では「体験学習などをたくさんしたい」「クラブ・部活動をたくさんしたい」が、4割を超えて高い割合となっています。
- 中学校2年生では「クラブ・部活動をたくさんしたい」が41.4%と最も高く、次いで「学校の校舎や教室、学習で使う道具などをよくしてほしい」「興味のあることをたくさん勉強したい」が続いています。
- 中学校2年生では、小学校5年生に比べて「クラスの人数をもっと少なくしてほしい」「一人ひとりの力に合わせた内容を教えてほしい」といった、きめ細かな学習指導を求める意見もやや多くなっています。

#### 児童生徒アンケート

■学校や先生に対する希望（複数回答） ※学年別クロス集計





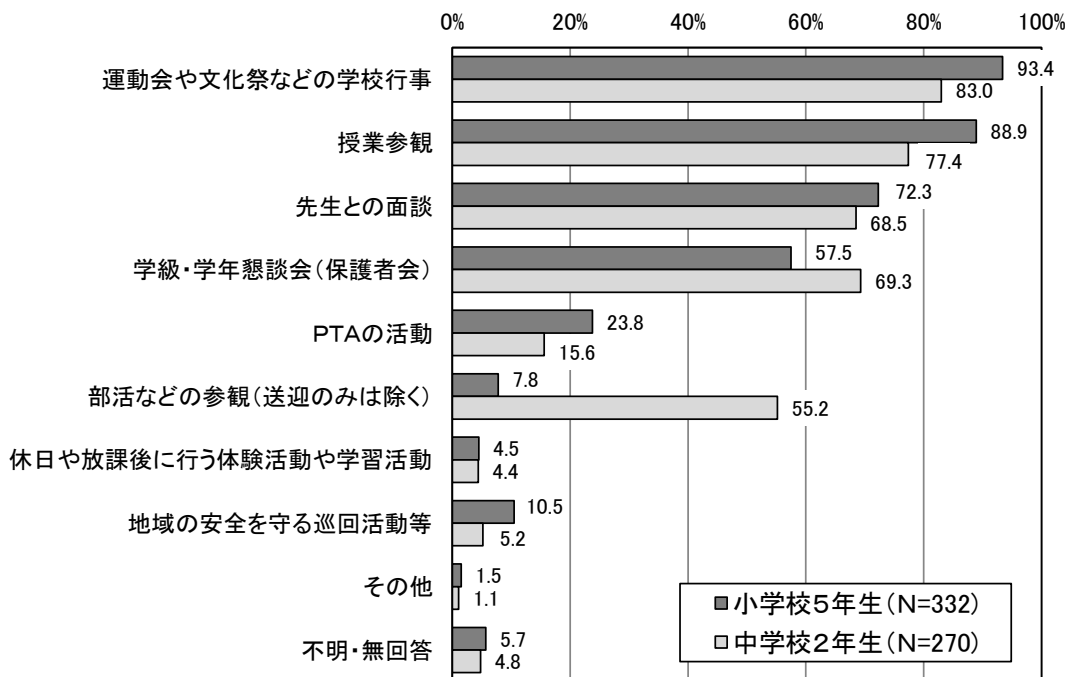
(4) 学校教育への保護者の参加について

保護者の多く（約9割）が運動会・文化祭などの学校行事や授業参観に参加しており、今後の参加意向も6割を超える。

- 保護者アンケートにおいて、出席したり参加したりした学校行事や活動についてたずねたところ、児童保護者、生徒保護者ともに「運動会や文化祭などの学校行事」「授業参観」の順となっています。生徒保護者では、児童保護者に比べて「部活などの参観」が大きく上回っています。
- 学校行事や活動にこれまで以上に参加したいと思うかたずねたところ、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」の割合が児童保護者で63.9%、生徒保護者で69.6%となっています。

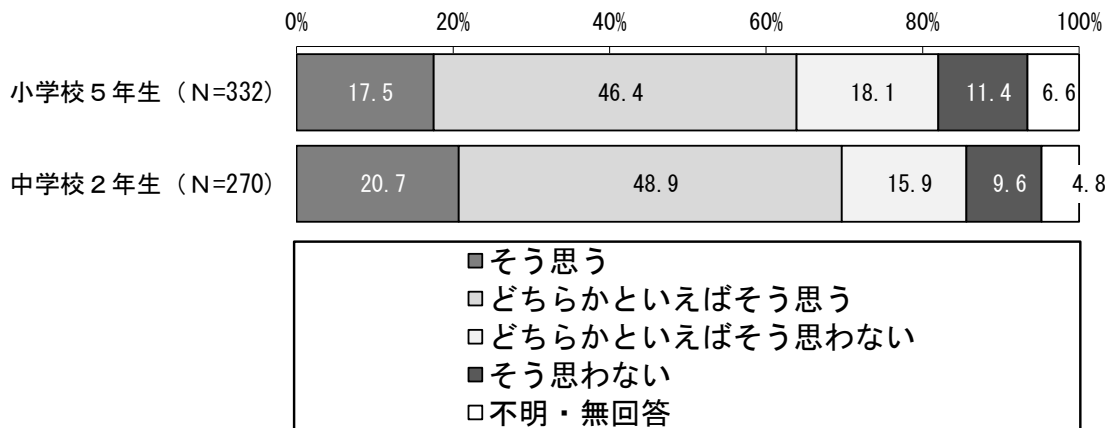
保護者アンケート

■ここ1年間のうち、出席したり参加したりした学校の行事や活動（複数回答） ※子どもの学年別クロス集計



保護者アンケート

■学校の行事や活動にこれまで以上に参加したいと思うか（単数回答） ※子どもの学年別クロス集計



(5) 学校教育の充実のために必要だと思う取組

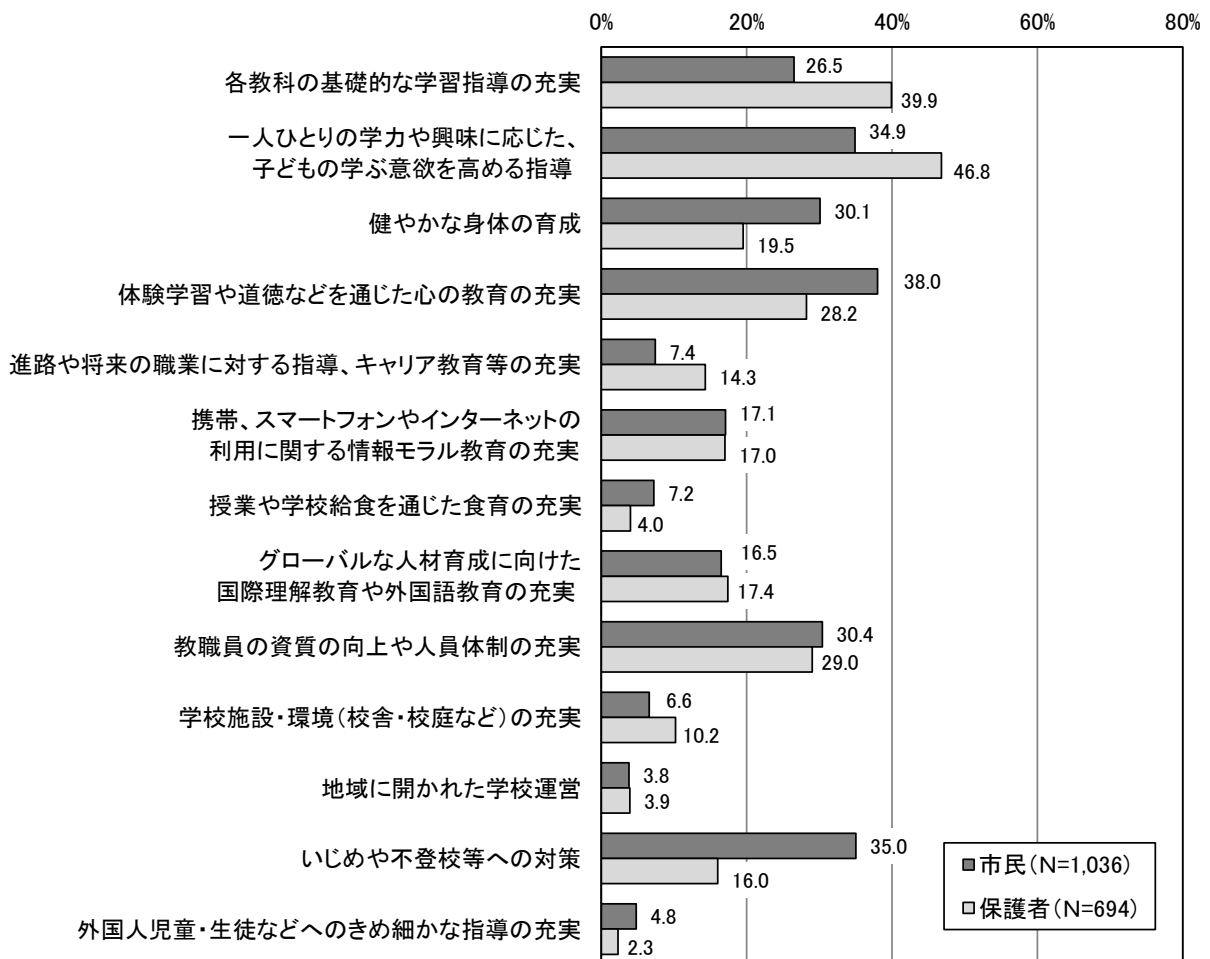
学校教育に対し、市民は心の教育やいじめ対策を、保護者は子どもたちの学力向上等を求めている。

○学校教育の充実のために必要だと思うことについてたずねたところ、市民アンケートでは「体験学習や道徳などを通じた心の教育の充実」「いじめや不登校等への対策」の割合が高く、心の教育に関するもので回答が多くなっています。

○市民に比べて保護者は「一人ひとりの学力や興味に応じた、子どもの学ぶ意欲を高める指導」「各教科の基礎的な学習指導の充実」の割合が高くなっており、子どもの学力向上に関する取組を希望していることがわかります。

保護者アンケート

■岩倉市の学校教育の充実のために必要だと思う取り組み（複数回答）



# 7 生涯学習活動等について

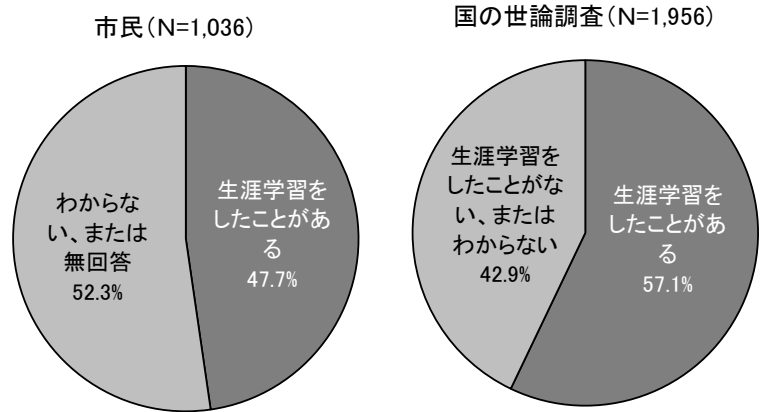
## (1) 生涯学習活動の状況

生涯学習活動をしている人の割合は47.7%で、国の調査結果よりも低い。

○市民アンケートにおいて、ここ1年間くらいの間の生涯学習活動の状況をたずねたところ、何らかの活動を行っている人の割合は47.7%となっています。この割合を国の世論調査と比較すると、岩倉市の活動者の割合はやや低くなっています。

○活動内容で最も割合が高いものは「健康・スポーツ」となっています。実際に行っているものと、今後必要になると思うものを比較してみると、「情報端末やインターネットに関すること」「ボランティア活動のために必要な知識・技能」「社会問題に関するもの」「育児・教育」「健康・スポーツ」の分野において、実際の活動に比べて今後の必要性を感じている人の割合が高くなっています。

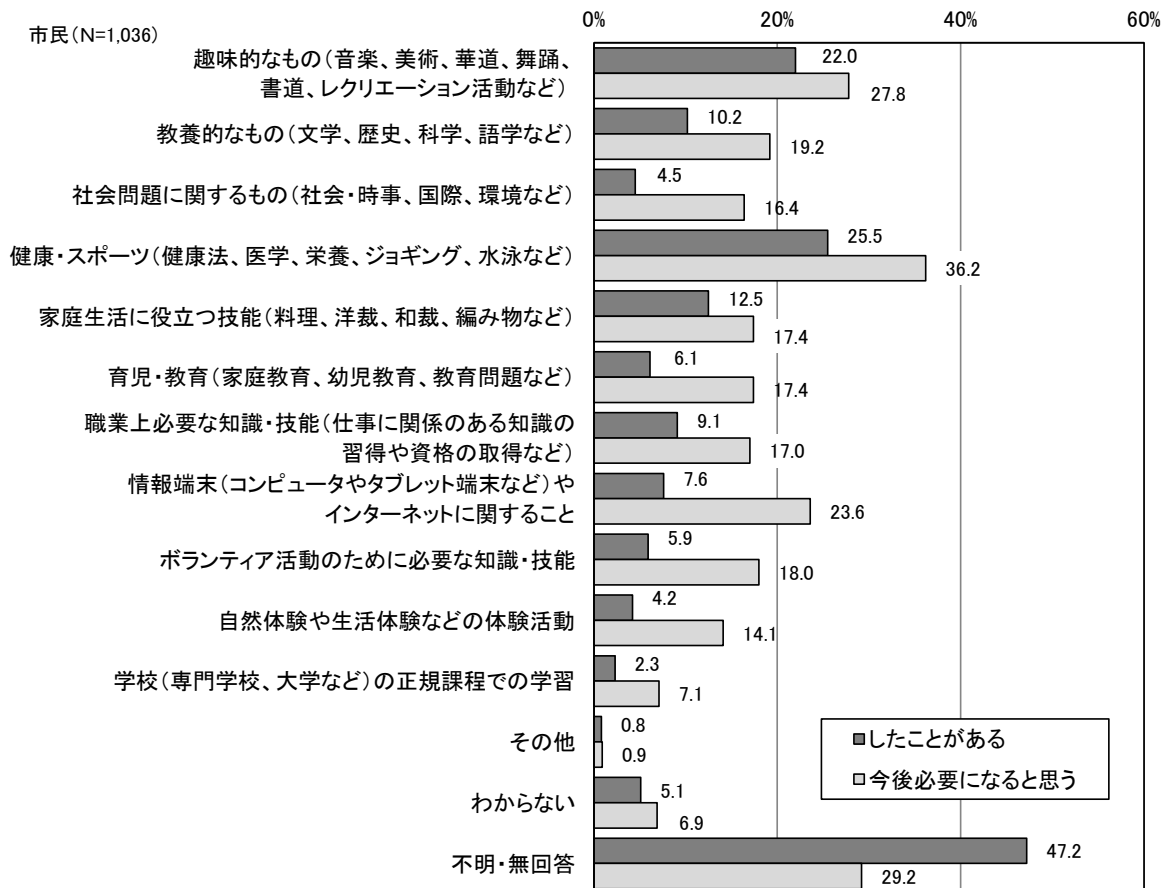
■生涯学習活動の状況（単数回答）



資料：生涯学習に関する世論調査（平成24年7月調査）

### 市民アンケート

■生涯学習活動の状況（複数回答）



**生涯学習活動をしている人の58.0%が知識・技術の活用に前向きである。**

○生涯学習をしている人に対し、よく利用する場所や施設をたずねたところ、「生涯学習センター」「総合体育文化センター」「図書館」の順となっています。岩倉市内のみではなく、市外の施設も約15%の市民に活用されています。

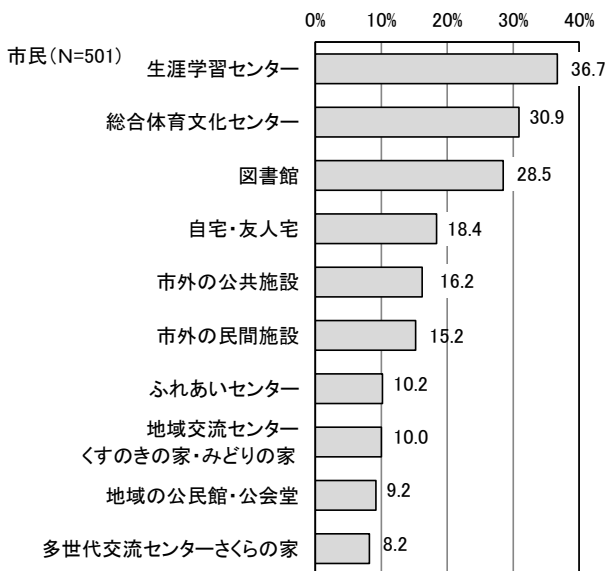
○生涯学習活動を行う目的では「その学習が好きであったり、人生を豊かにするため」が52.9%と最も高くなっています。「地域や社会をよりよくするため」との回答は5.0%にとどまっています。

○身に付けた知識等を活用することに対して、生かしたいと「思う」または「どちらかといえば、思う」と回答した割合は58.0%となり、活動者の半数以上が前向きな意向を持っています。

○生涯学習活動をしていない理由をたずねたところ、「仕事が忙しくて時間がない」が35.1%、「きっかけがつかめない」が19.8%となっています。時間的なゆとりや、活動のきっかけづくり等が必要であると言えます。

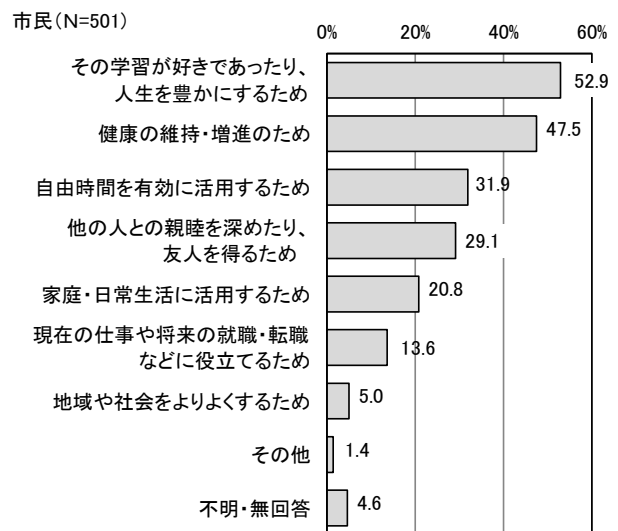
**市民アンケート**

■よく利用する場所・施設等（複数回答）※上位10位



**市民アンケート**

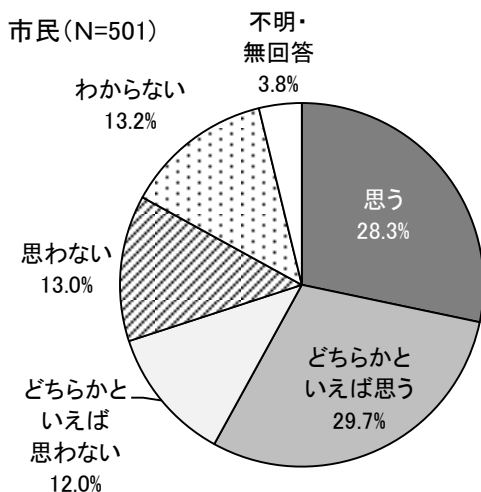
■生涯学習活動を行う目的（複数回答）



**市民アンケート**

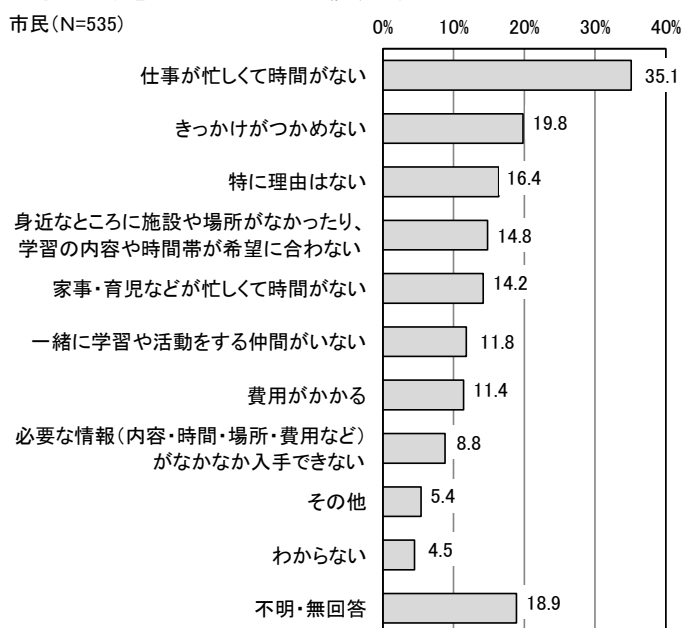
■身に付けた知識等を生かしたいと思うか

(単数回答)



**市民アンケート**

■生涯学習活動をしていない理由（複数回答）



生涯学習をしたことがある人は、87.8%が活動を続けたいと思っている。生涯学習をしていない人で、今後活動したいと思っている人は40.6%。

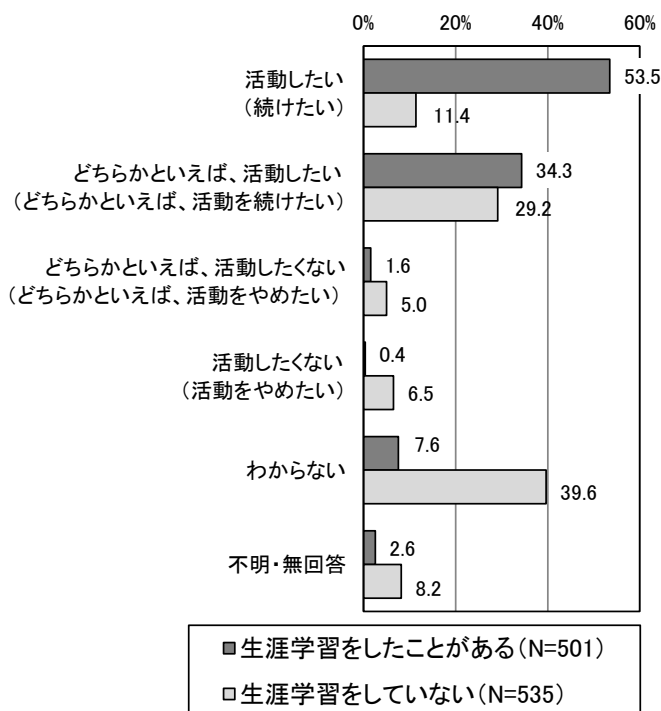
○今後の生涯学習活動の意向を活動の経験別に比較してみると、生涯学習をしたことがある人は、87.8%が「続けたい」または「どちらかといえば、続けたい」と回答しています。一方、生涯学習をしていない人のうち、「活動したい」「どちらかといえば、活動したい」と回答した割合は40.6%となっています。また、生涯学習をしていない人では、「わからない」も39.6%を占めています。

○市が主催する生涯学習講座への参加状況・意向についてたずねたところ、35.9%が「参加したことがないが、今後参加したい」と回答しており、「参加したことがなく、今後も参加するつもりはない」の29.9%を上回っています。

○市が力を入れるべきだと思うことは、生涯学習活動の経験の有無にかかわらず「気軽に取り組みやすい雰囲気づくり」が最も高くなっています。活動したことがある人は、していない人に比べて「講座や教室数の増加」「生涯学習施設の整備や充実」を求めています。

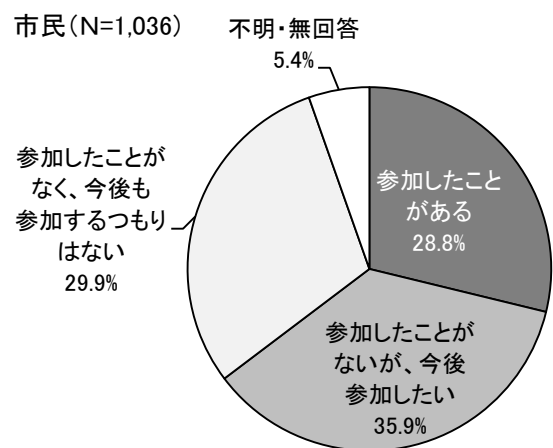
市民アンケート

■今後、生涯学習活動をしたり、始めたりしたいか（単数回答）



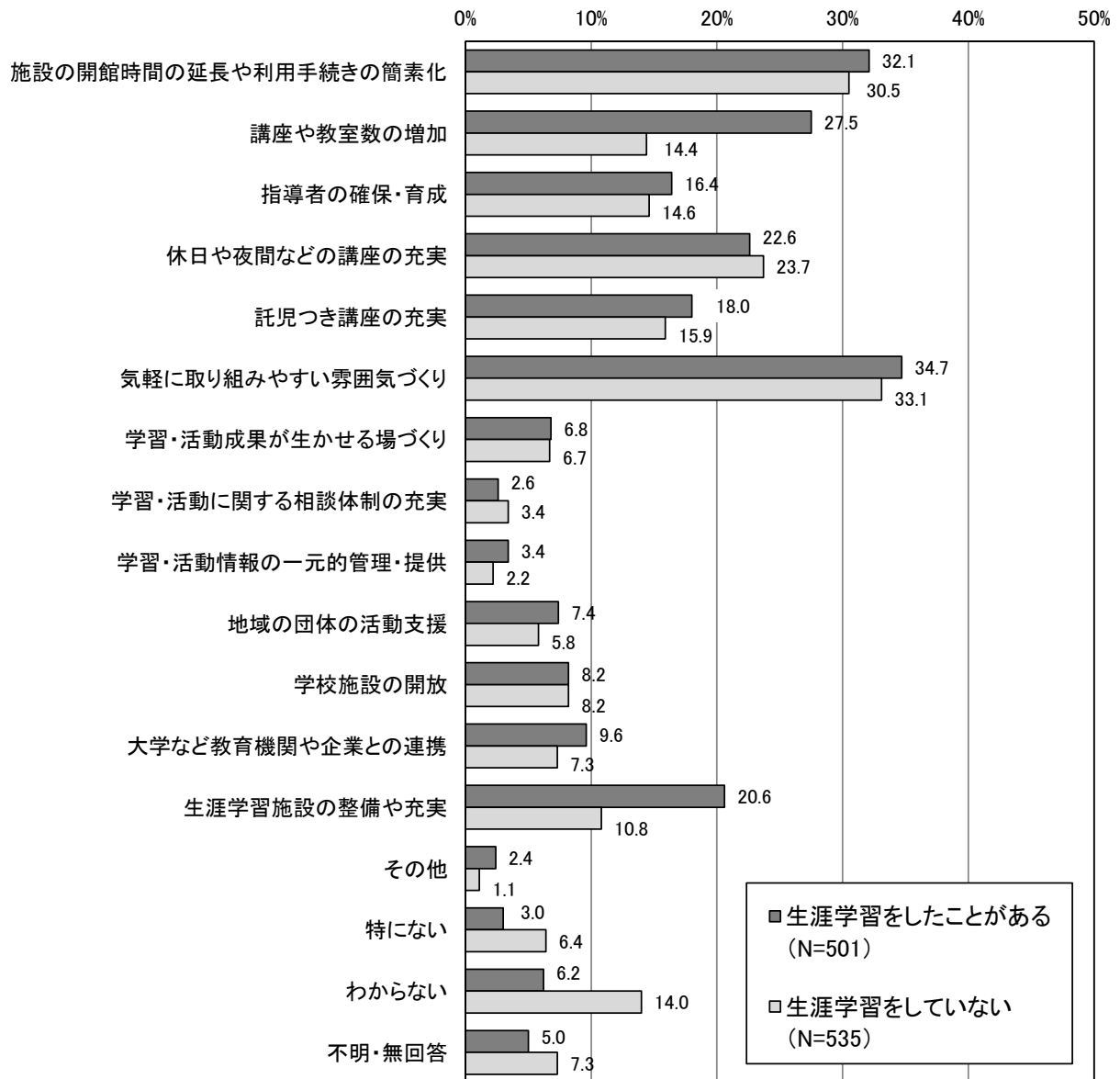
市民アンケート

■市が主催する生涯学習講座に参加したことがあるか（単数回答）



市民アンケート

■人々が学びたいときに学べるようにするために市が力を入れるべきだと思うこと（複数回答）※学習経験別クロス集計



(2) 文化・スポーツ活動について

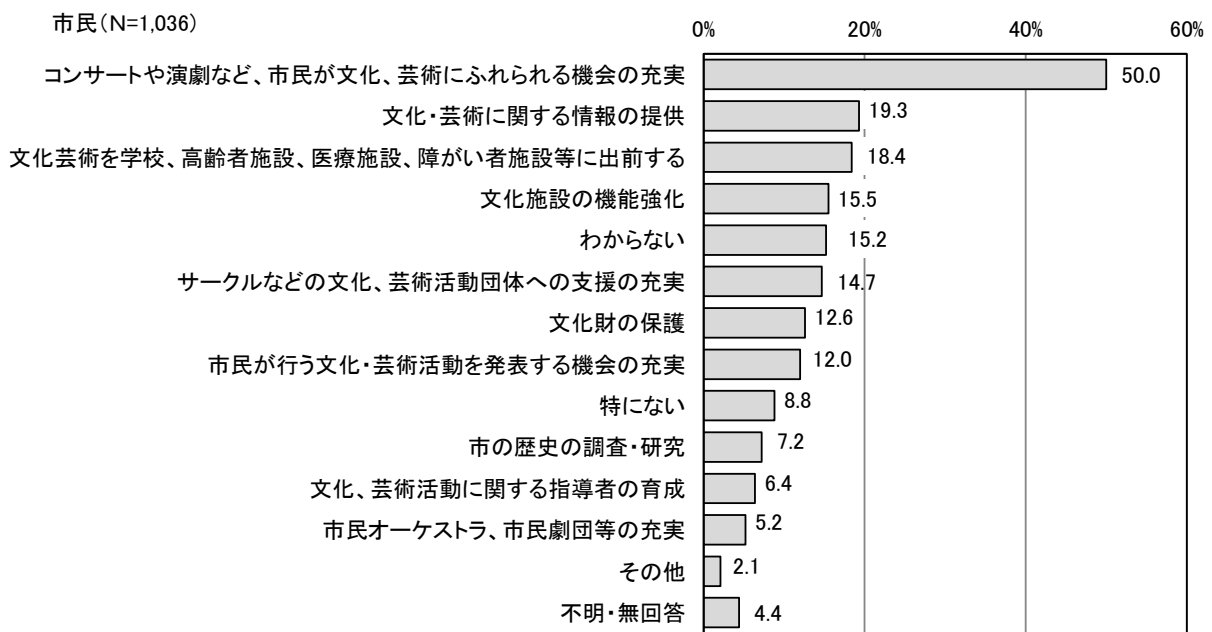
文化・芸術活動の充実のためには「文化、芸術にふれられる機会の充実」が、スポーツ活動の充実のためには「スポーツイベントや大会の開催」が必要とされている。

○市民アンケートにおいて、市の文化・芸術活動の充実のために必要だと思う取組は何かたずねたところ、「コンサートや演劇など、市民が文化、芸術にふれられる機会の充実」が50.0%と群を抜いて高くなっています。

○市のスポーツ活動の充実のために必要だと思う取組については、「スポーツイベントや大会の開催」「スポーツ情報の提供」「スポーツ施設や設備の充実」などで回答が多くなっています。

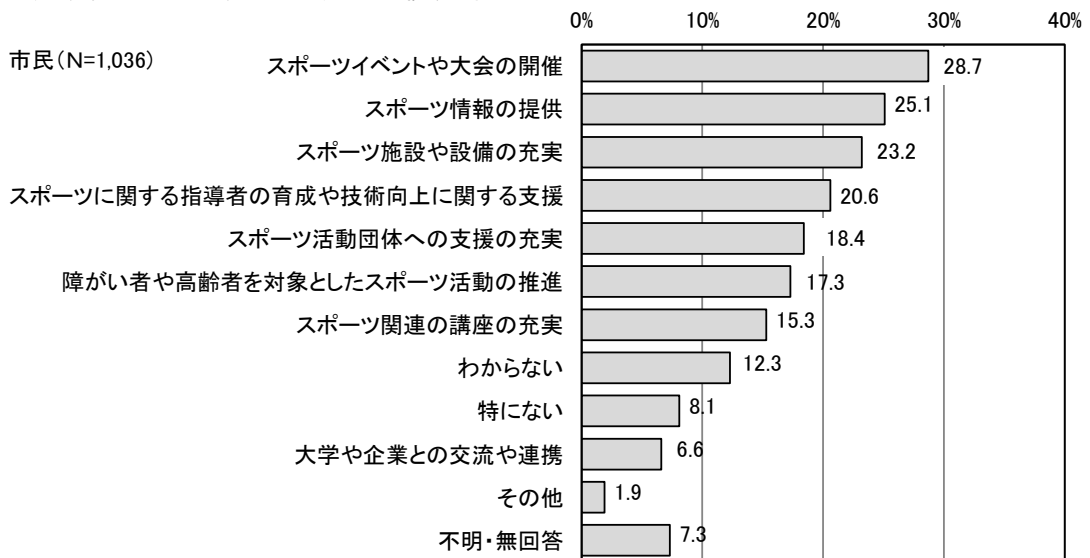
市民アンケート

■市の文化・芸術活動の充実のために必要だと思う取組（複数回答）



市民アンケート

■市のスポーツ活動の充実のために必要だと思う取組（複数回答）



(3) 図書館や読書活動について

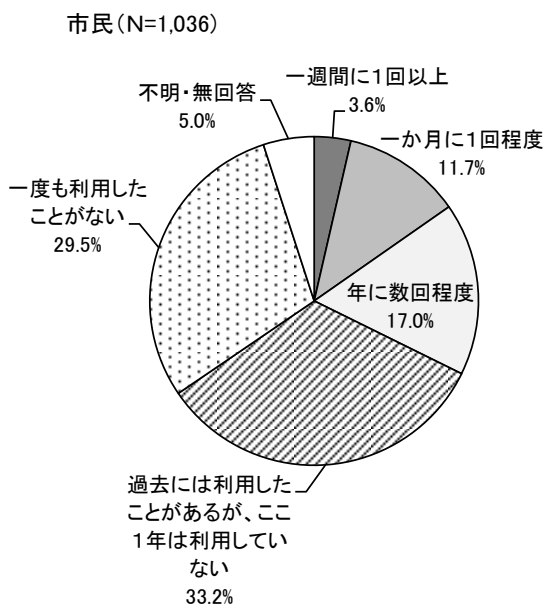
図書館を利用していない市民が多い。図書館に求められているものは「図書や雑誌の充実」。

○市民アンケートにおいて図書館をどれくらい利用しているかたずねたところ、過去1年間に利用した割合は32.3%となっています。最も割合が多いものは「過去には利用したことがあるが、ここ1年は利用していない」で33.2%、「一度も利用したことがない」で29.5%と、利用していない市民の方が多くなっています。

○図書館に求めるものは、「図書や雑誌の充実」が66.8%と最も高くなっています。図書館の利用頻度別に求めるものをみると、上位に大きな変化はありませんが、一週間に1回以上、一か月に1回程度の利用がある層では「音楽資料・映像資料の充実」が比較的高くなっています。

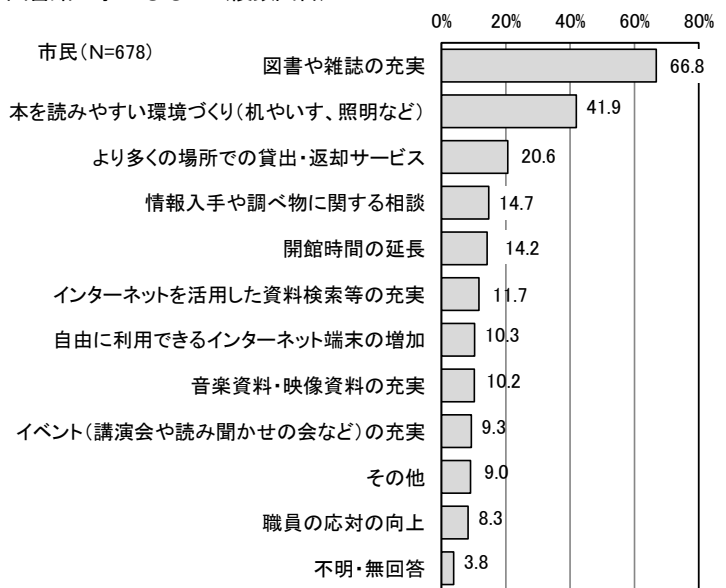
市民アンケート

■図書館をどれくらい利用しているか（単数回答）



市民アンケート

■図書館に求めるもの（複数回答）



市民アンケート

■図書館に求めるもの（複数回答） ※図書館の利用頻度別クロス集計・上位5位まで

一週間に1回以上 (N=37)		一か月に1回程度 (N=121)	
1	図書や雑誌の充実 73.0%	1	図書や雑誌の充実 81.0%
2	本を読みやすい環境づくり(机やいす、照明など) 27.0%	2	本を読みやすい環境づくり(机やいす、照明など) 38.8%
	音楽資料・映像資料の充実 27.0%	3	より多くの場所での貸出・返却サービス 24.0%
4	より多くの場所での貸出・返却サービス 24.3%	4	音楽資料・映像資料の充実 16.5%
5	情報入手や調べ物に関する相談 18.9%	5	情報入手や調べ物に関する相談 14.9%
	開館時間の延長 18.9%		イベント(講演会や読み聞かせの会など)の充実 14.9%
年に数回程度 (N=176)		過去には利用したことがあるが、ここ1年は利用していない (N=344)	
1	図書や雑誌の充実 71.0%	1	図書や雑誌の充実 59.0%
2	本を読みやすい環境づくり(机やいす、照明など) 50.0%	2	本を読みやすい環境づくり(机やいす、照明など) 40.4%
3	より多くの場所での貸出・返却サービス 23.3%	3	より多くの場所での貸出・返却サービス 17.7%
4	情報入手や調べ物に関する相談 17.6%	4	開館時間の延長 13.1%
5	開館時間の延長 16.5%	5	情報入手や調べ物に関する相談 12.8%



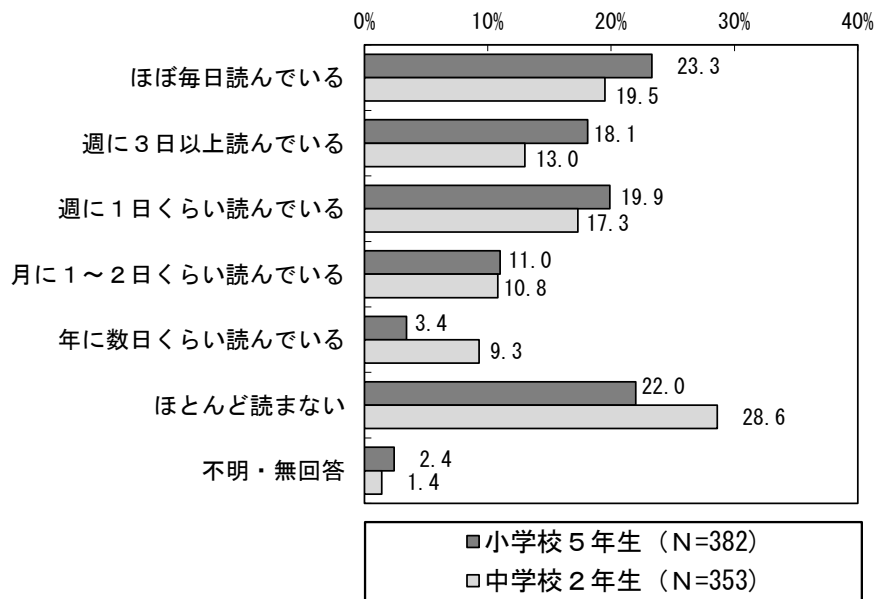
小学生、中学生ともに本をほぼ毎日読んでいる割合は約2割。中学生になると「ほとんど読まない」割合が高くなり、読書離れの傾向がみられる。

○児童生徒アンケートにおいて放課後や、学校が休みの日などに本を読むかたずねたところ、小学校5年生では「ほぼ毎日読んでいる」が23.3%、次いで「週に1日くらい読んでいる」が19.9%と続いています。中学校2年生では「ほとんど読まない」28.6%と、最も高くなっています。

○小学校5年生と中学校2年生を比較してみると、「ほとんど読まない」割合が中学校2年生で大きく上回っています。

児童生徒アンケート

■放課後や、学校が休みの日などに本を読むか（単数回答） ※学年別クロス集計



(4) 子どものスポーツ活動について

学校以外のスポーツクラブには、小学生の半数近くが加入している。

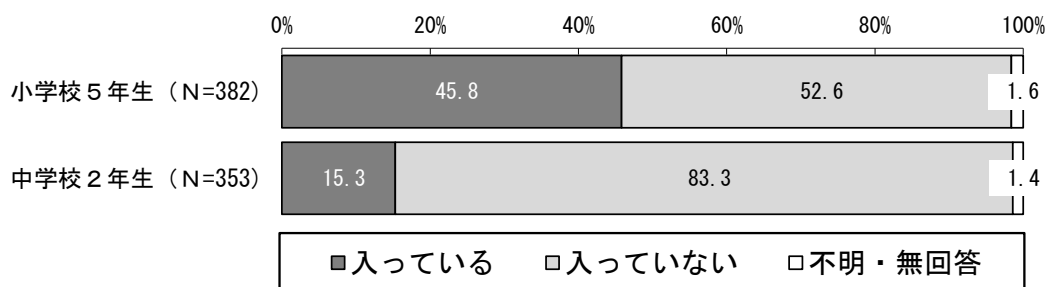
中学生の運動頻度については、「ほとんど毎日」と「しない」がともに小学生よりも高くなっており、二極化の傾向もみられる。

○児童生徒アンケートにおいて、学校以外のスポーツクラブに入っているかたずねたところ、「入っている」割合が小学校5年生で45.8%、中学校2年生で15.3%となっています。

○運動やスポーツの頻度をたずねたところ、「ほとんど毎日」が小学校5年生で49.5%、中学校2年生で60.1%となっており、中学生でその割合が高まっています。しかし、中学校2年生では「しない」割合が11.3%と小学校5年生に比べて高くなっています。

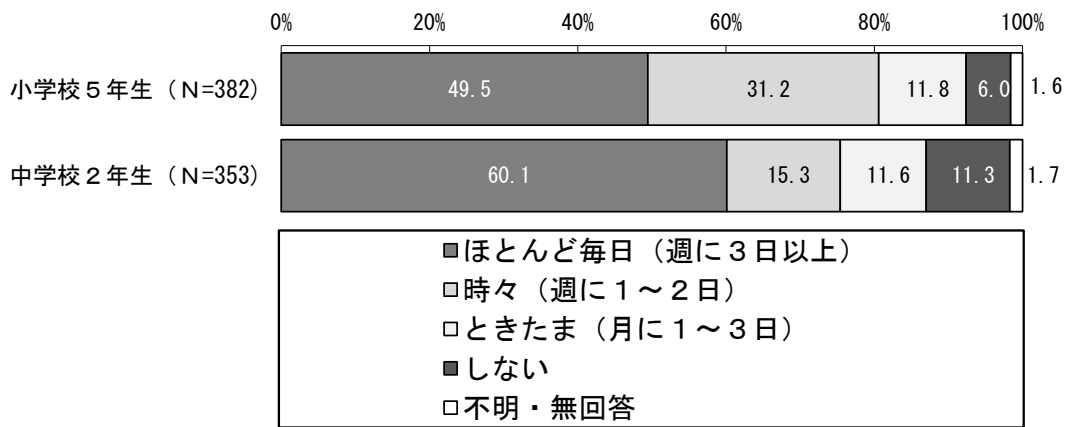
児童生徒アンケート

■学校以外のスポーツクラブに入っているか（単数回答） ※学年別クロス集計



児童生徒アンケート

■運動やスポーツをどのくらいやっているか（単数回答） ※学年別クロス集計

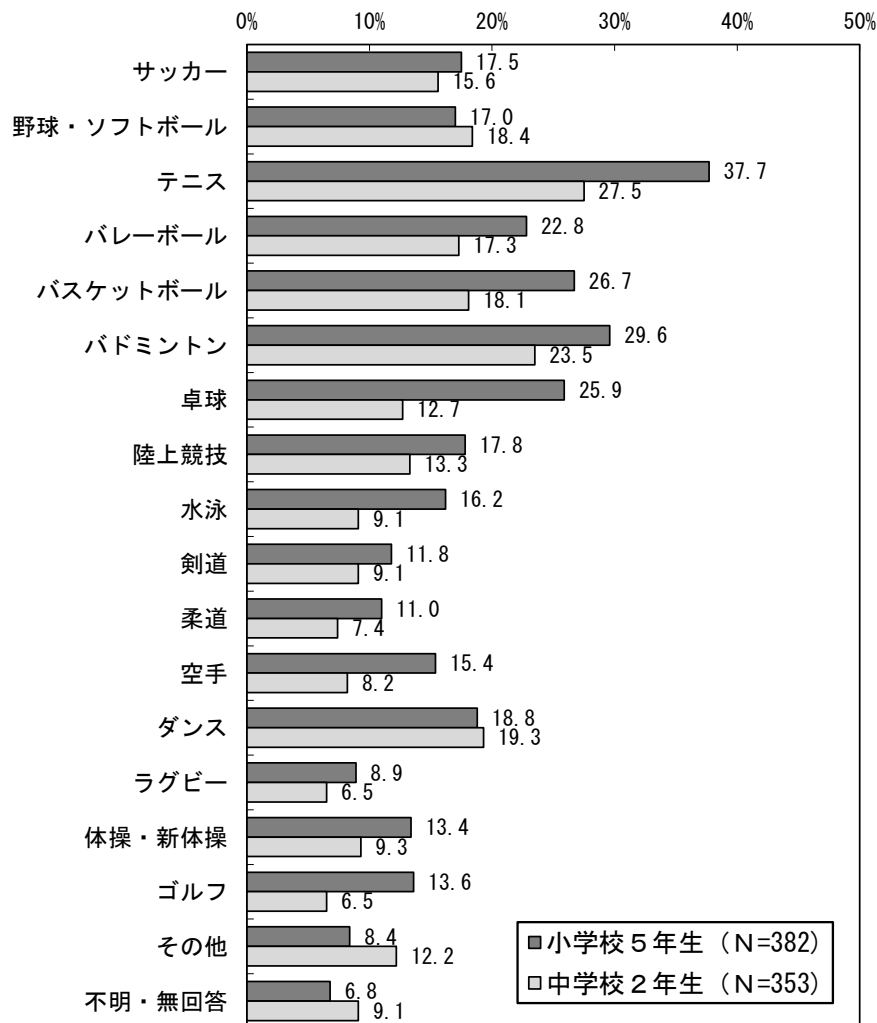


小学生、中学生ともに「テニス」「バドミントン」に取り組みたい意向が高い。

○児童生徒アンケートにおいて、これからやってみたいスポーツをたずねたところ、「テニス」が小学校5年生で37.7%、中学校2年生で27.5%と、ともに最も高くなっています。

児童生徒アンケート

■これからやってみたいスポーツ（複数回答） ※学年別クロス集計



(5) 子どもの文化活動について

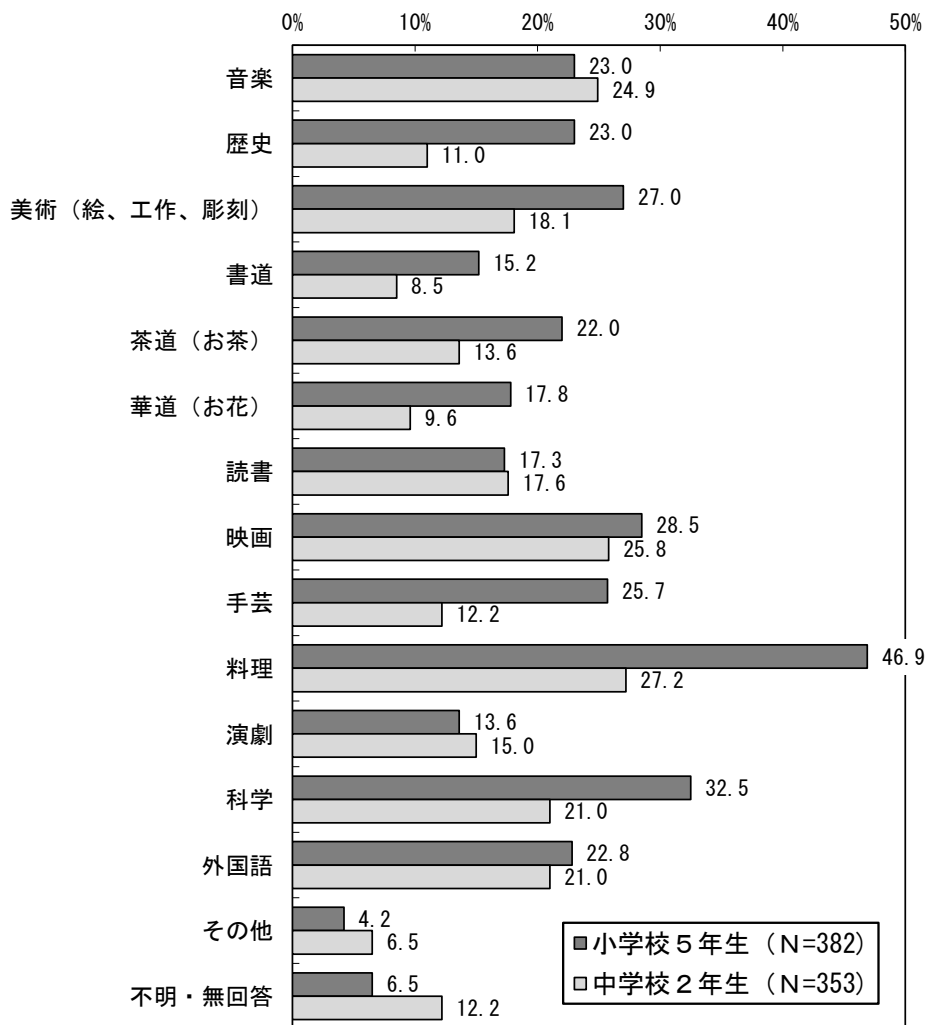
小学生、中学生ともに「料理」に取り組みたい意向が高い。

○児童生徒アンケートにおいて、これからやってみたい文化活動をたずねたところ、「料理」が小学校5年生で46.9%、中学校2年生で27.2%と、ともに最も高くなっています。

○小学校5年生と中学校2年生とを比較すると、小学校5年生では中学校2年生に比べて「料理」「手芸」「歴史」「科学」で10ポイント以上高くなっています。

児童生徒アンケート

■これからやってみたい文化活動（複数回答） ※学年別クロス集計



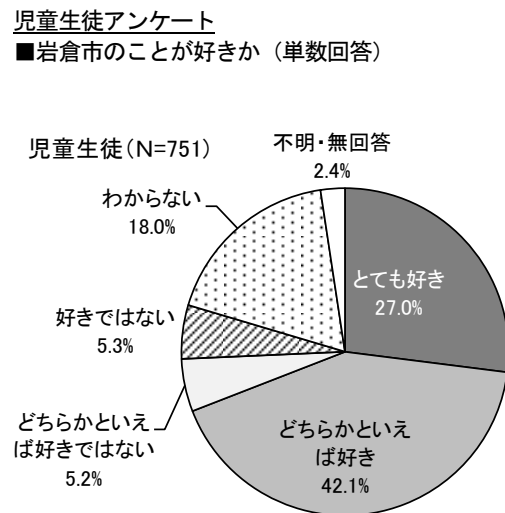
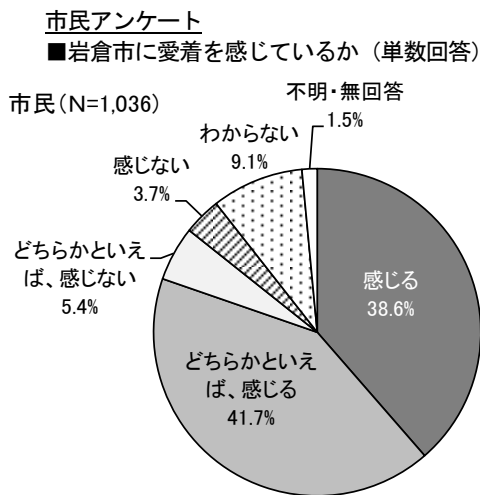
## 8 岩倉市への愛着や誇り、将来の意向について

### (1) 岩倉市への愛着について

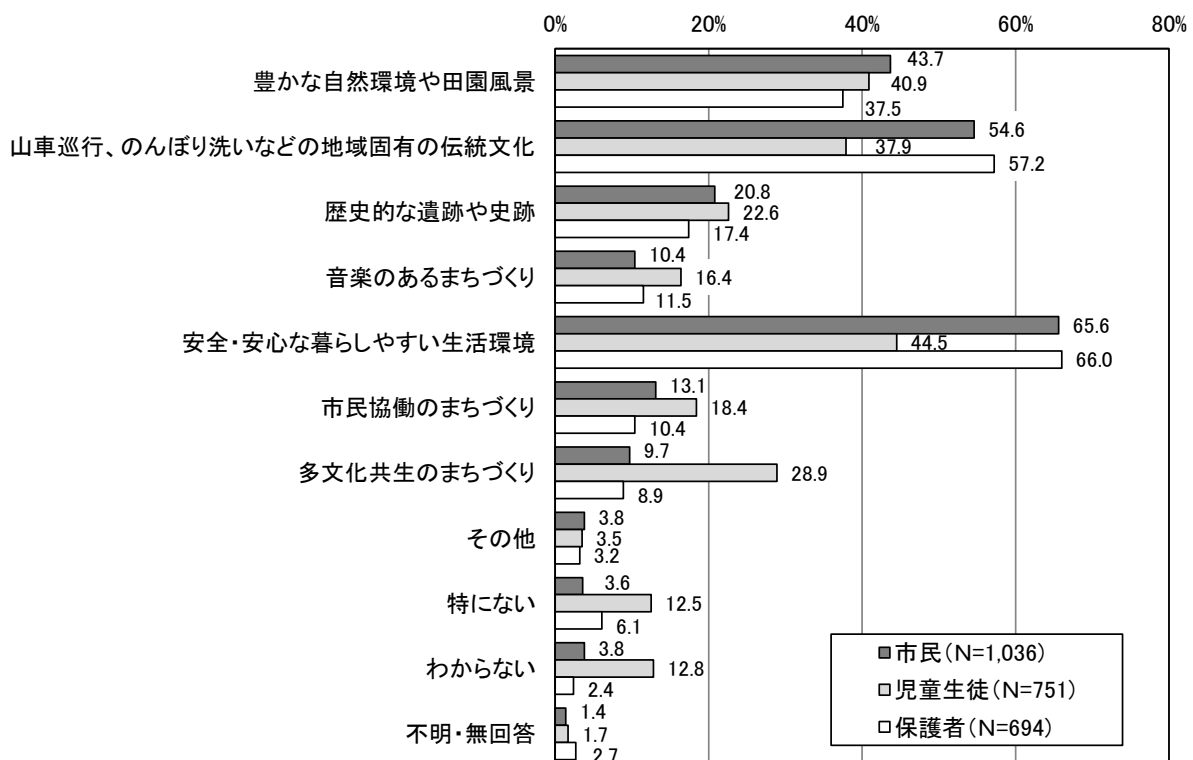
市民の 80.3%が岩倉市に愛着を感じ、児童生徒の 69.1%が岩倉市を好きだと回答している。岩倉市の特長や誇りとして最も認識されているものは「安全・安心な暮らしやすい生活環境」。

○市民アンケートにおいて岩倉市に愛着を感じているかたずねたところ、市民の 80.3%が「感じる」または「どちらかといえば、感じる」と回答しています。また、児童生徒アンケートでは 69.1%が岩倉市を「とても好き」または「どちらかといえば好き」と回答しています。しかし、児童生徒アンケートでは「わからない」とする流動的な層も 18.0%みられています。

○岩倉市の特長や誇りについては、児童生徒で、市民・保護者に比べて「多文化共生のまちづくり」「音楽のあるまちづくり」「市民協働のまちづくり」の割合が高く、学校での活動が反映されていると考えられます。



**市民アンケート・児童生徒アンケート・保護者アンケート**  
■岩倉市の特長や誇りとして大事にしていきたいと思うもの（複数回答）



(2) 将来や岩倉市への居住意向について

将来に希望を持つ子どもの割合は小学生で 80.4%、中学生で 63.2%。岩倉市に住み続けたい、または戻りたいとする割合は小学生で 64.9%、中学生で 52.6%。

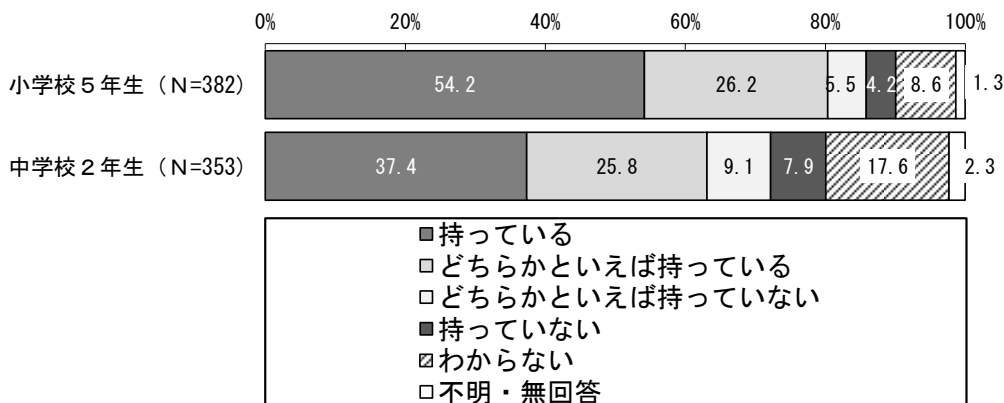
○児童生徒アンケートにおいて、将来に希望を持っているかたずねたところ、「持っている」または「どちらかといえば持っている」の割合が小学校 5 年生で 80.4%、中学校 2 年生で 63.2%となっています。

○「持っていない」または「どちらかといえば持っていない」の割合は、小学校 5 年生で 9.7%、中学校 2 年生で 17.0%であり、中学校 2 年生の方で割合が高くなっています。中学校 2 年生では、「わからない」とする割合も 17.6%あり、将来への夢や希望を描きにくい状況となっていることが懸念されます。

○児童生徒アンケートにおいて、将来の居住意向をたずねたところ、岩倉市に住み続けたい、または戻りたいとする割合は小学校 5 年生で 64.9%、中学校 2 年生で 52.6%となっています。また、保護者アンケートにおいて、子どもに将来どのように暮らしてほしいかたずねたところ、児童保護者、生徒保護者いずれも「遠方で暮らしてもかまわない」が最も高い割合となっています。

児童生徒アンケート

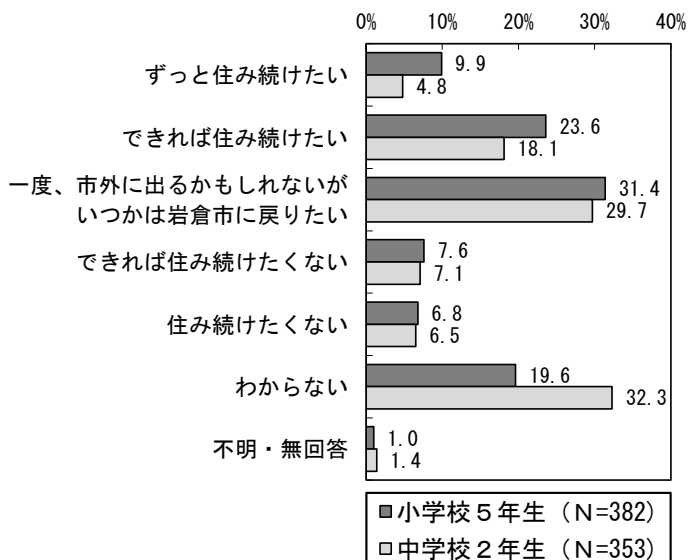
■将来に希望を持っているか (単数回答) ※学年別クロス集計



児童生徒アンケート

■将来、岩倉市に住み続けたいか (単数回答)

※学年別クロス集計



保護者アンケート

■将来、子どもにどのように暮らしてほしいか (単数回答)

※子どもの学年別クロス集計

